

「顏真卿の書」⑦

宋環碑・碑側 唐・大歴十三年(788年)

主圖版



右・顏氏家廟碑

左・宋璟碑碑側



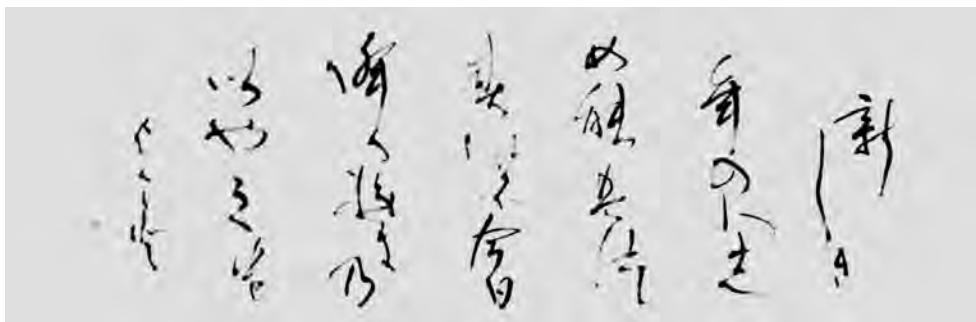
宋璟碑の碑側の書を紹介しよう。

前回しめした全碑の縮小図版の左端の縦長図版の一面のみが、碑陽の書とは異なる。右頁の主図版にその一部をほぼ原寸大で示した。この図版の書を初めて目にされた方は、顏真卿の書と認識される方は少ないのである。多くの方は、この碑側の文は、碑陽、碑陰の本文が刻されてから、7年を経て顏真卿以外の書とされるであろう。顏真卿晩年の書である。清朝後期の学者の中には、この碑側の書を顏真卿の最高の書と評価する人もいる。この書の書風を理解するために、顏真卿の楷書の代表作となる「顏氏家廟碑」と比較してみよう。字画の鮮明な文字を選び、ほぼ字形、筆画が共通する文字を選び、ほぼ同じ大きさにした比較対照図版をしめした。(補助図版②)。筆画の太さ、文字の構成が、相當に異なる。碑側の書のほうが、「顏氏家廟碑」よりも伸びやかであり、文字のバランスのとり方が、違いが見られる。これまでの顏真卿の楷書に見られない構成や筆勢が、独特の趣を醸し出している。日本の近代の書壇でも、この碑側の書に目を向けた人々がいた。

伊藤滋（書斎名・木鶲室）

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2019)



第72回書道芸術院展「新しき年」

前田 まさ美書



### 「感謝」

裾野の美しい赤城山に抱かれた高校で、私は書道部に入りました。下谷東雲先生に巡り会い、古筆の臨書を中心におかのご指導を頂き、連綿の美しさや変体がなに接し、かな書道を今日まで続ける切っ掛けとなりました。

平成7年から、下谷洋子先生にご指導を頂いています。その後、東京教室を開設して下さり、直に洋子先生のダンスをしている様な筆運びを目の当たりにして、今までに無かった刺激と感動を受けています。文字の表現、拡大臨書、歴史的な遣い等々、細部に亘る注意点のご指導を頂き、また同時に一緒に学んでいる仲間の作品からも刺激を受けて勉強を続けています。

かな書道も時代と共に細字から中字・大字と作品が大きく変わってきました。文字が大きくなる程力量が問われます。今は臨書を拡大して学習しています。墨継ぎ、リズム、呼吸、線質等々、今まで見落としていた部分が沢山感じられ、新たな発見があります。先生は度々おっしゃいます。「よく見る、疑問を持つて考えて筆を運ぶ」と。

機会を得て、漢字・現代詩文書の勉強もさせて頂いています。漢字は古典の臨書、今は造像記を学習しています。濃墨で起筆・収筆・転折等習った事を頭で考えながら、ゆっくり筆を動かして書きます。現代詩文書は文字交換、連綿は出来ません。題材は主に詩、俳句、童謡から選びます。漢字とかなの調和、最も強く表現する言葉は?墨色は?筆は?放ち書きと文字の造形、余白等々悩み制を作しますが、作品の表情や肝心な線が思うようには書けません。

書は「線が生命」「書は心画たり」様々な言葉があります。部門に関係なくこの書の道は奥が深く難しいですね。

掲載の作品は、第72回書道芸術院展です。万葉集大伴家持の歌で「雪が降り積もるよう目に出てい事が重なる」の意味です。迷わず年頭に相応しい歌として作品にしましたが…温かく明るい作品に仕上げたいと思う自分の気持ちとは、ほど遠い作品になってしましました。会場では、ほど遠い作品になってしまいました。会場で観る作品は、いつも反省の繰り返しです。この反省を次回作品に生かせるように日々努力です。

私は今、半世紀以上に亘る書道との関わりを振り返り、今日まで続けられた幸せを嬉しく思いい、又関連のお仕事、展覧会で大勢の方々との出会いもあり、貴重な経験をさせて頂けたことに感謝しております。

今日まで、東雲先生、洋子先生を始め多くの先生方のお導きを頂いたこと、また書友の温かい励ましに心よりお礼を申し上げます。

時代は令和に移り、心新たにますます精進していくかと思います。



## 漢字(四)

### 最首翠風

#### 自由の精神

私は本院の名称「書道芸術院」と誌名「書道芸術」が大変気に入っている。ふと興に駆られ、全国の競書誌(一般用)の総数と名称を「年刊書道2016」から当たってみた。総数は三年前のことゆえ異動はあるが301誌、名称に「芸術」と付くものはわが「書道芸術」のほかに「書法芸術」が一誌のみ。「○○書

「芸」というように「書芸」を付すものは多い。が「芸」では猿の芸を連想してしまうとの笑い話もある。

「書道芸術院」は昭和22年、鉛々たる書家のメンバーによって誕生したことは院史などで屢々知られている。私達は常に草創時の熱気を想い起こしつつ歩みたいものである。

図版の種谷扇舟書「雁塔聖教序」(千葉市美術館蔵)は2009年の「文字の力書のチカラ—古典と現代の対

話ー」出光美術館に展示されたもの(1990年制作)

ます臨書作品と並べて原拓を屏風に貼り込んだ発想に驚く。更に臨書の落款部に自身の心境を現代文体で書き加えた異例さ(漢文体には漢文で添えるのが通常)に驚く。私は師からこの自由の精神を学んだ。



## 21世紀の書 —私の主張—



第72回書道芸術院展「ある日の内省」

大隅晃弘書

## 現代詩文書(四)

### 大隅晃弘

現代詩文書が書の構造下にどう位置づけられるかを考えれば、書の芸術性を問う小山正太郎の「書ハ美術ナラズ」論、近代詩文書発展の礎となった金子鶴亭の「新調和体論」にまで踏み込む必要があるだろうが、この誌面では割愛させていただくこととする。

これまで3回の小論主題を次の一おりまとめておく。

◆言葉を書くことで世界觀を紙面に定着させる書の原理

とおりまとめておく。

これまで3回の小論主題を次の一

◆書き手(書家)と読み手(鑑賞者)が存在する書における書家の主体性

◆様々な書表現を普遍化する古典臨書の意義

これらの主題は現代詩文書の根幹に係わる様々な課題を孕んでいるようと思う。

本院の現代詩文書については、日常生活に密接する現代文体を素材とする作品や、古典文学までをも素材とした現代的表現作品を指すようだ。そこには、素材の意味内容を要に置きながら、戦後書に見られる奇烈氣味な表現を求める書への姿勢が垣間見られる。

素材選択は書家の主体性に委ねられてはいるが、素材の意味内容に重点が置かれることで素材意味の理解が前提となり、読めるか読めないかという鑑賞者の主体化が優位に働く傾向があるよう思われる。このことは、現代詩文書の特性であり、書の本質を考えていく上での大テーマでもある。

掲載作、高橋利郎氏からの評にある「言葉と書による重層的な表現」とは、現代詩文書における素材と書表現の課題に係わる的確な示唆と思われる。

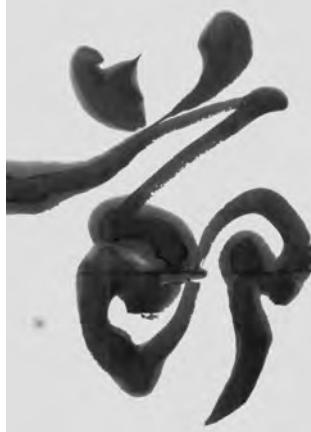
# 令和元年度 新審査会員作品

新 爽風（漢）・小山内谷玲（漢）・清遠 瑞（漢）・高岡 秀汀（漢）



新  
爽風  
(大阪)

「節」



審査会員昇格と新年号令和との大きな二つの節目にあたり、この文字を書く事で決意を新たにしています。  
今後も、より一層精進してまいりますので、よろしくご指導お願い申します。

（爽風）

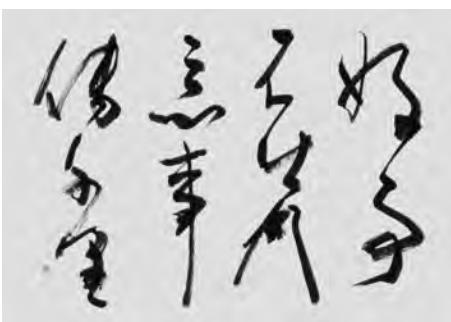


清遠 瑞  
(高知)

「起」

この度は、審査会員への昇格、誠にありがとうございました。まだ未熟な私ではありますが、気合いを入れ直し気持ち新たに精進して参りたいと思う込め、「起」という文字を題材に創作いたしました。

（瑞）



高岡 秀汀  
(高知)

「好事不出門惡事伝千里」

普段の作品制作の時とは違うものにしてよいと思い、羊毛中鋒の筆を使い薄めの墨で横書きの作品にしました。  
審査会員昇格を機に多彩な表現ができるよう精進して参りたいと思います。

（秀汀）



小山内谷玲  
(宮城)

「墨痕淋漓」

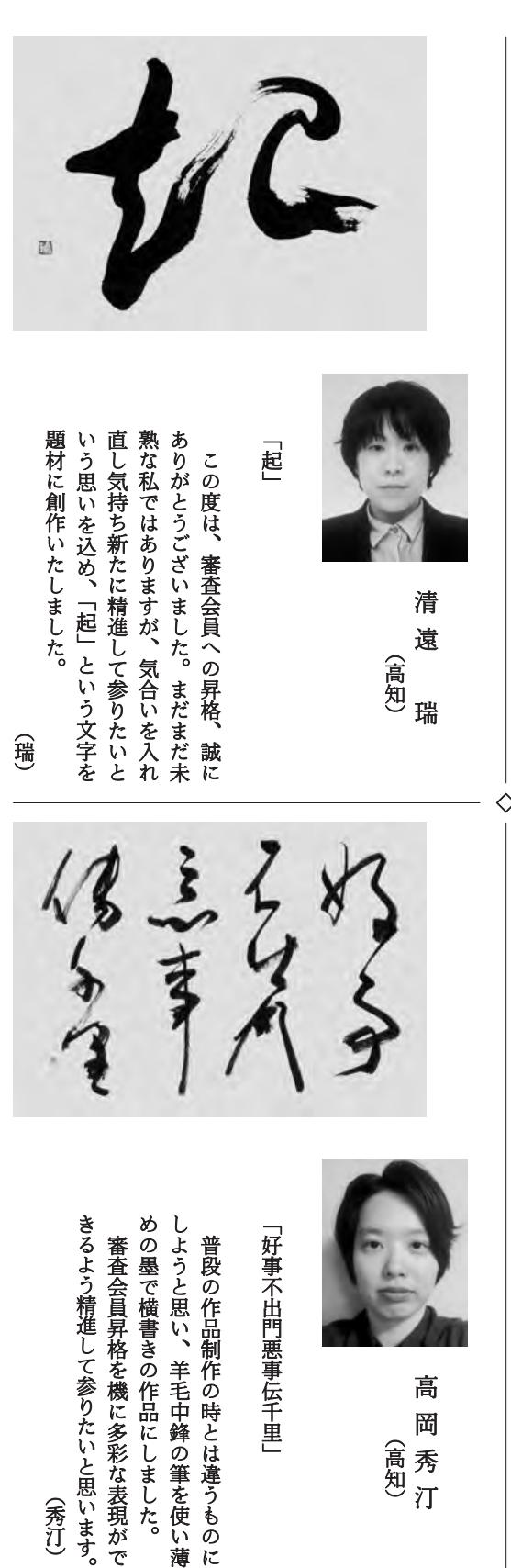


筆で書いた文字が生き生きとして勢いのあるさま。  
半田藤扇先生のご指導のお陰で書作品を創る楽しさを知りました。筆遣いから生まれる艶やかな線と魅力ある構図を目標とし、今後の百谷社を書友と共に書の道に邁進してまいりたいと存じます。

（谷玲）



※8月号も引き続き、新審査会員のご紹介をさせていただきます。



顏氏家廟碑（唐）顏真卿 ①

漢字研究部臨書課題

（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）当該古典の左記掲載部分以外も可。



〈解説〉

顏氏家廟碑は、唐・建中元年(780) 颜真卿(709~785)の父惟貞の祠廟内に建てられた顏氏一族の履歴について記された碑である。撰文、書ともに颜真卿。篆額は李陽冰の書。四面に刻され、縦342×横160 cm。碑の表裏は各24行、行ごとに47字。両側は各6行、行ごとに52字。

総字数200余字の巨碑である。陝西省博物館(西安碑林)

第2室に現存する。字形は正方形に近く、胴太の縦線を向勢に構える。界線いっぱいに、重厚な線でどつしりと構えた迫力ある楷書で、顔法とよばれている。この碑は晩年72歳の代表作で、麻姑仙壇記(大字)とともによく現れている。

※掲載図版70%縮小

(編集部)

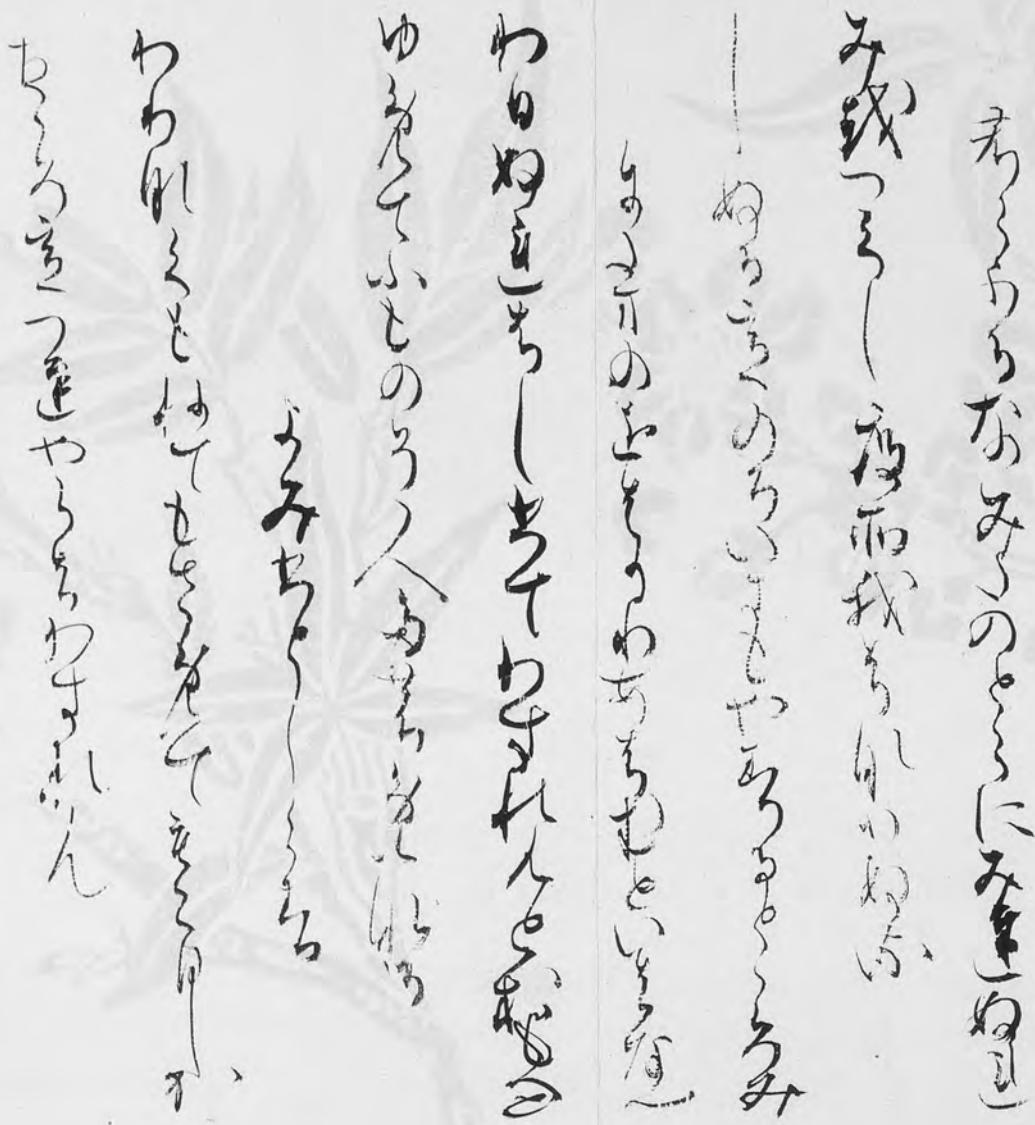
※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)



(京都国立博物館蔵)

解説 本阿弥切は、近世初期の能書家本阿  
弥光悦 (1558~1637) が一部を愛蔵していたこと  
からこの名がある。『古今和歌集』を書写し  
たものである。もとは巻子本で、巻第12の一  
巻(国宝・京都国立博物館蔵)、巻第16の大  
半と巻第17の一部を継いだ一巻(宮内庁三の  
丸尚蔵館蔵)が零巻(完本ではなく一部が欠  
けた巻物)として現存するほか、多くの断簡  
が各家に分蔵されている。

料紙は各縦16.7cm、横28.4cmの小さな唐紙を継  
いだもので、小粒で円みを帯びた字形が力強  
い筆勢で書写されている。

古来、小野道風 (894~966) 筆と伝称され  
きたが、料紙、書風等から見て12世紀前半の  
遺品と考えられる。

(編集部)

(※掲載図版は原寸)

種谷萬城

花落知多少  
孟浩然「春曉」  
(花落つること知らず多少ぞ)

花は、どれほど散つただろうか。  
先月に続き「春曉」の4句目を、  
明末清初の傅山を参考に、連綿行  
草で書きました。上の1作は、画  
数の多い「花落」を1行目に、画  
数の少ない「知多少」を2行目に  
配しました。左の一作では、構成  
を変えました。傅山の書は、変化  
自在で、綿々と続く流麗な線が魅  
力的です。臨書では非その魅力を  
味わって下さい。臨書は緻密で最  
良な鑑賞の方法です。そして、創  
作への出発点でもあります。



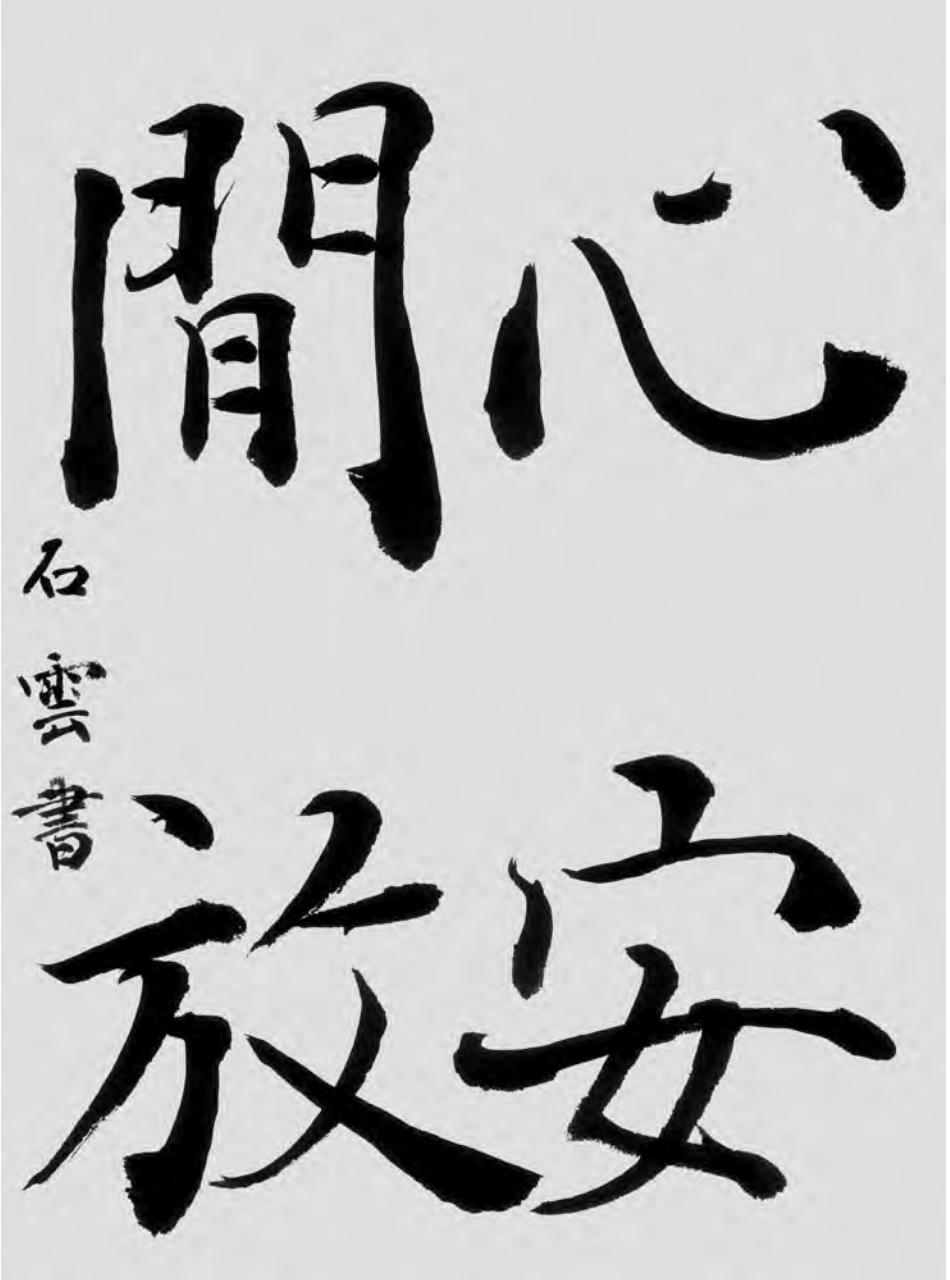
花落知多少 よみ(花落つること知らず多少ぞ)

書体=自由



小竹石雲

心安間放  
(心安間放)



今回は褚遂良の雁塔聖教序を参考に書きました。歐陽詢、虞世南の影響を受け独自の繊細な叙情的表現が特徴です。抑揚のあるしなやかで強い線は技の粹を尽くした名品中の名品と言われています。

俯仰法を使うことで線が多彩になり、しづらりあげられた細線が強くなっています。焦らず心落ち着かせ、筆先の動きを大切に書きましょう。筆先の定着があまいと、線のみならず字形も崩れてしまいます。

緩急の変化によるリズムで表情にロマンが加わって妙趣に富んだ作品になります。  
表現オーバーになると格調が下がってきます。私は少し長峰氣味の羊毛筆で書いてみました。

かな規定 初段以上【八月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

奥田瑞舟選書

### 習い方解説 (一)

奥田瑞舟

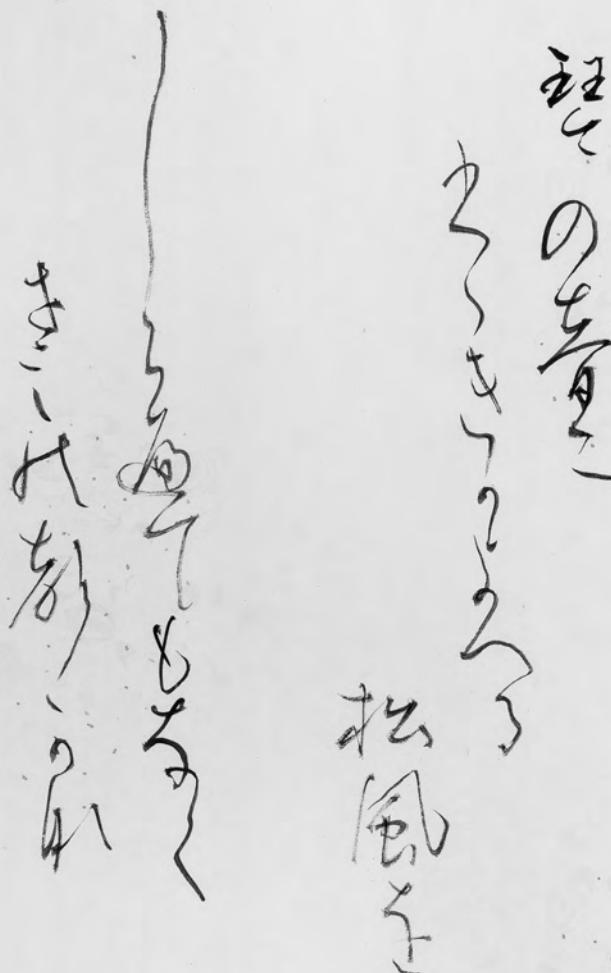
琴の音にひびきかよへる松風を  
しらべてもなく蟬のこゑかな  
(よみ人しらず『新拾遺和歌集』)

指導書からの抜粋です。「かな

は連綿することで姿を変えるとい  
います。かなの一文字の姿は連綿  
する中で前に書いていく流れに、  
適応する姿に動いていくもので、  
固定した一字一字が続くのではない。  
単体も大切ですが、かなの一文字  
の習熟に重点をおくべきです。」

連綿線の種類でも行の揺れが変  
わります。放ち書きの部分でも、  
時間をゆったりさせ広さを感じま  
す。気持ちの入った線で次の字に  
繋げて下さい。

五



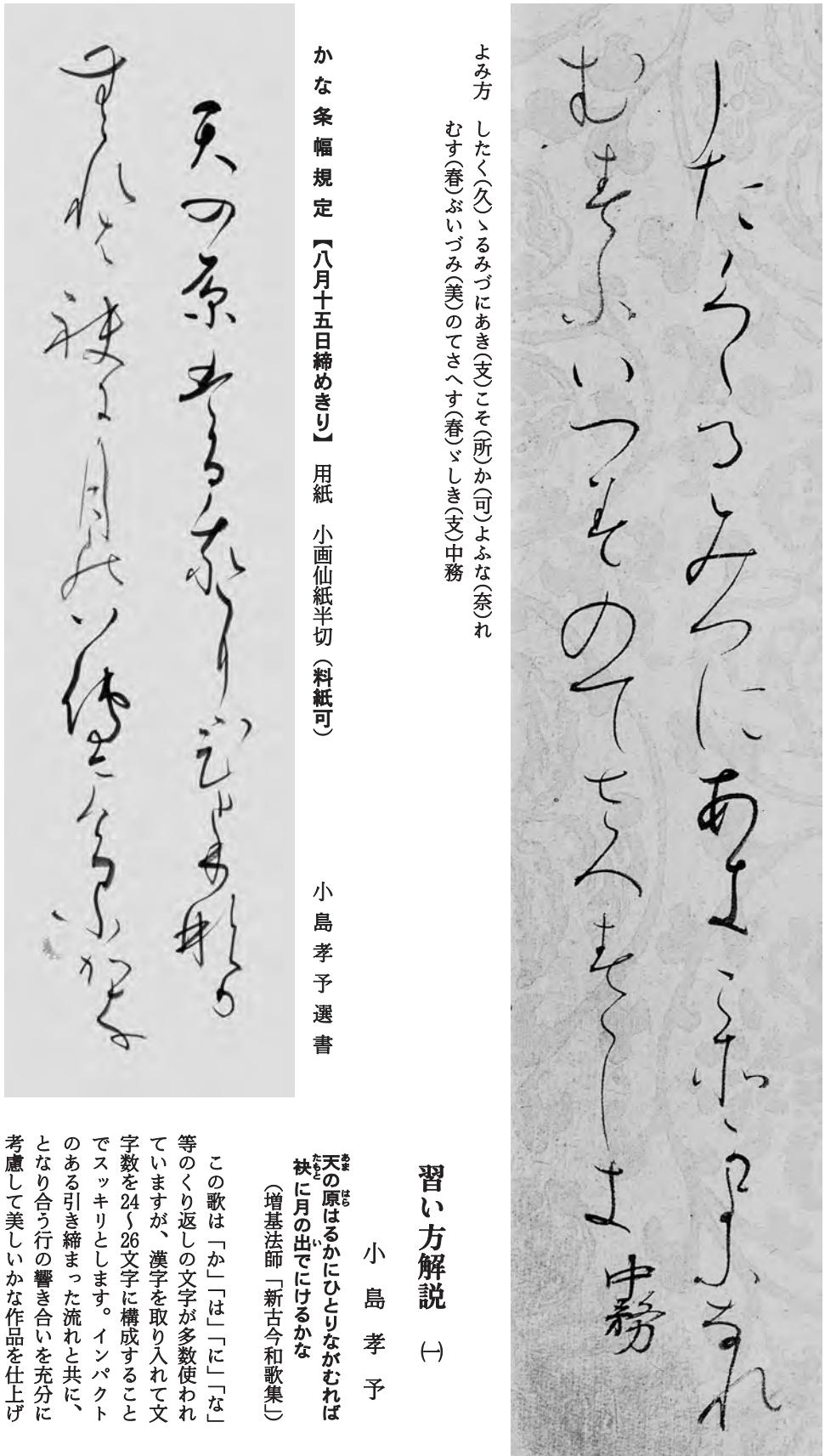
よみ方 琴の音に(一)ひ(悲)び(へ)きか(可)よへる松風を  
しらべ(遍)てもな(奈)く蟬(世三)の(能)こゑ(声)か(可)な(那)

創作

かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方

したく(久)ゝるみづにあき(文)こそ(所)か(司)よふな(奈)れ  
むす(春)ぶいづみ(美)のとへす(春)ゞしき(支)中務

### 習い方解説 (一)

小島 孝予

天の原はるかにひとりながむれば  
袂に月の出でにけるかな

(増基法師「新古今和歌集」)

この歌は「か」「は」「に」「な」等のくり返しの文字が多数使われていますが、漢字を取り入れて文

字数を24~26文字に構成することでスッキリとします。インパクトのある引き締まった流れと共に、となり合う行の書き合いを充分に考慮して美しいかな作品を仕上げて下さい。

よみ方 天の原は(盤)るか(我)に(耳)ひ(飛)とり(利)な(那)が(司)む(無)れば(者)  
袂に(尔)月の(能)出(レ)で(轉)に(レ)け(介)る(累)かな(奈)

創作

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島孝予選書

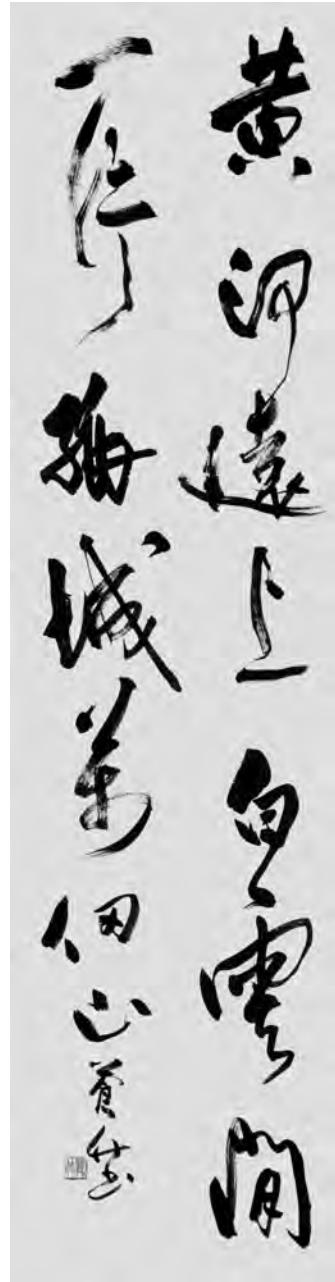
漢字条幅規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

## 習い方解説 四

名 越 蒼 竹



黄河遠上白雲間 一片孤城萬仞山  
(黄河遠く上る白雲の間 一片の孤城萬仞の山)  
(王之涣詩)

書体=自由

多字数の作品を行草書で作る場合、流動性の發揮と見せ場の展開は必須でしょう。そのためには、文字の大きさ・高さ・幅を自在に変化させる力が必要です。しかし簡単には身につきません。思い切って変化させようとすると、不自然な形や流れになりやすいのです。上達には長い修練が必要ですが、思い切らないと始まりません。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



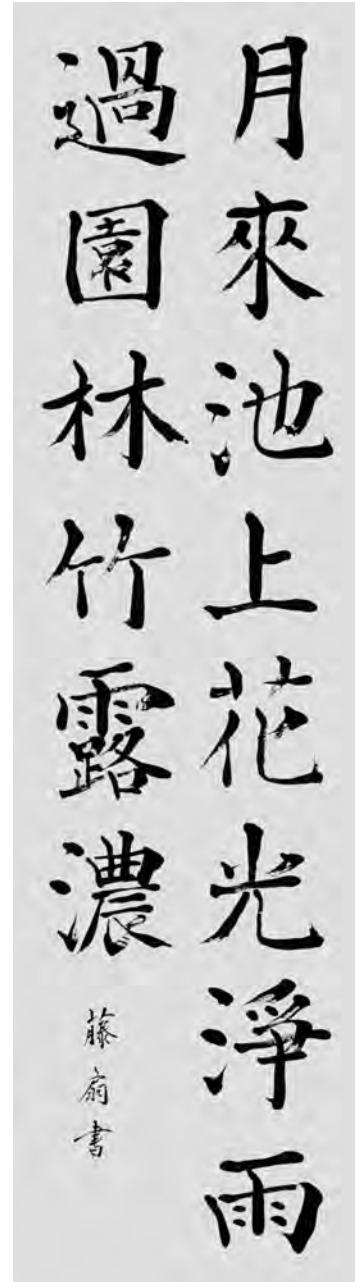
褚遂良の雁塔聖教序を思い浮かべてください。リズムにのった線の響きと構築性を。鍛えると奥深い表現力が生まれてきます。

それには、筆の選出も大切です。穂先の利いた筆、又は艶やかな線を醸し出す羊毛筆。

手持ちの筆でいろいろと試みてはいかがでしょうか。穂の長さ5㌢、羊毛を使用しました。

月來池上花光淨 雨過園林竹露濃  
(月は池上に来りて花光淨く 雨は園林を過ぎて竹露濃し)

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

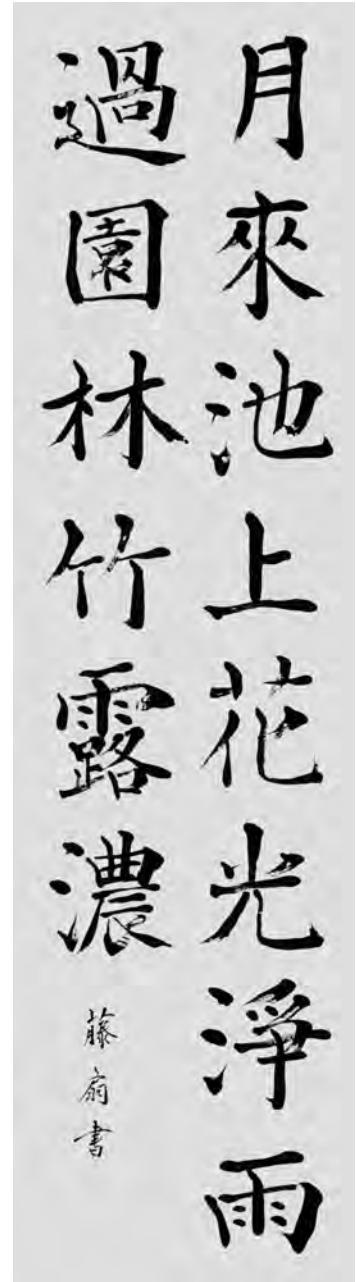


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

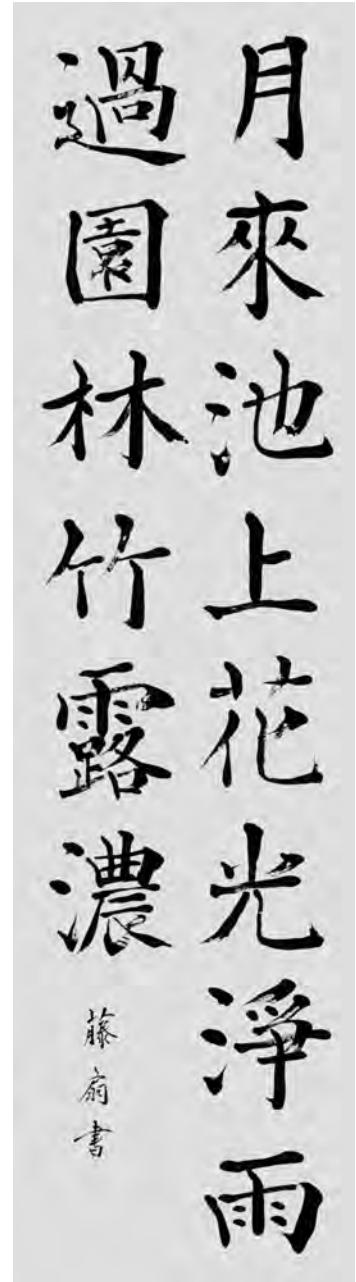


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

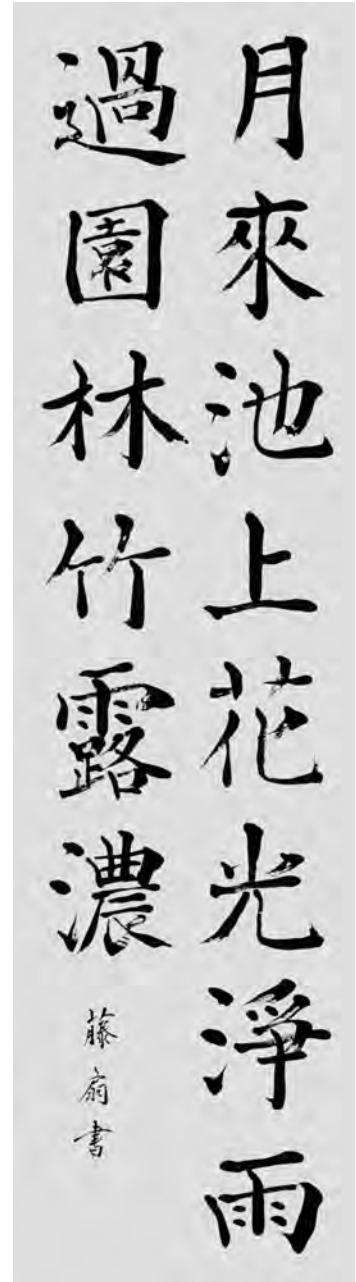


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

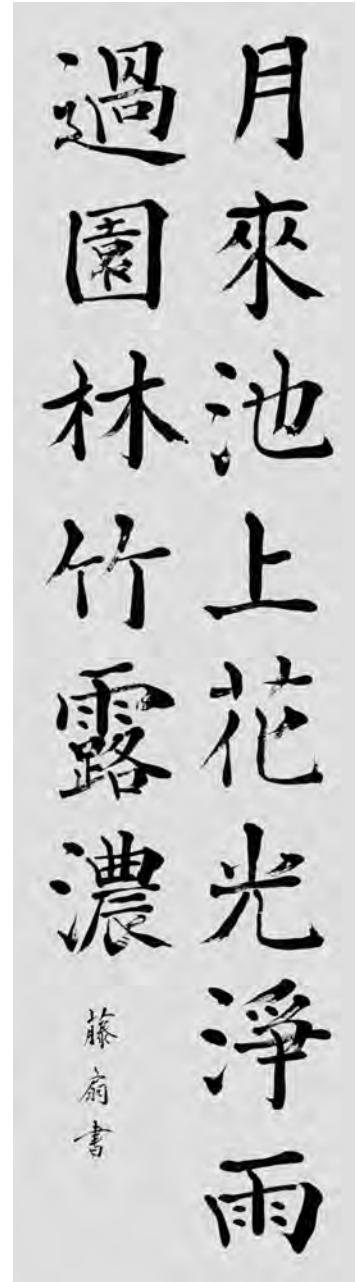


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

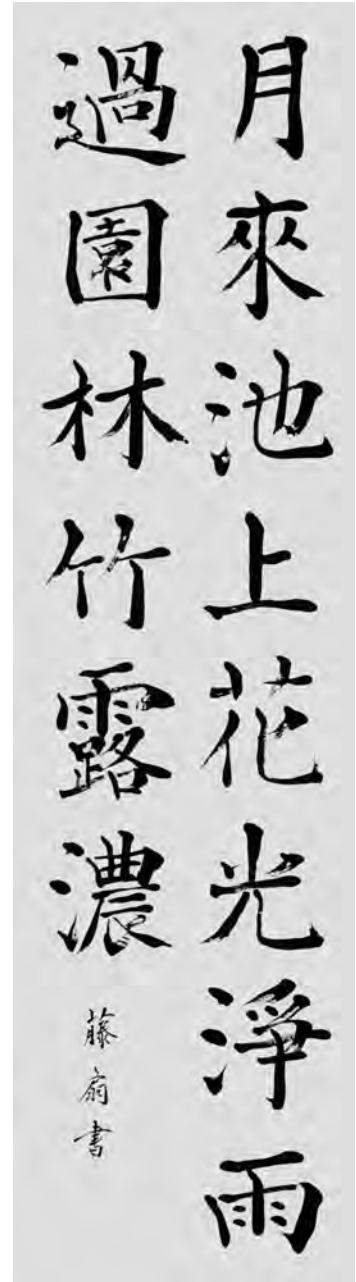


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

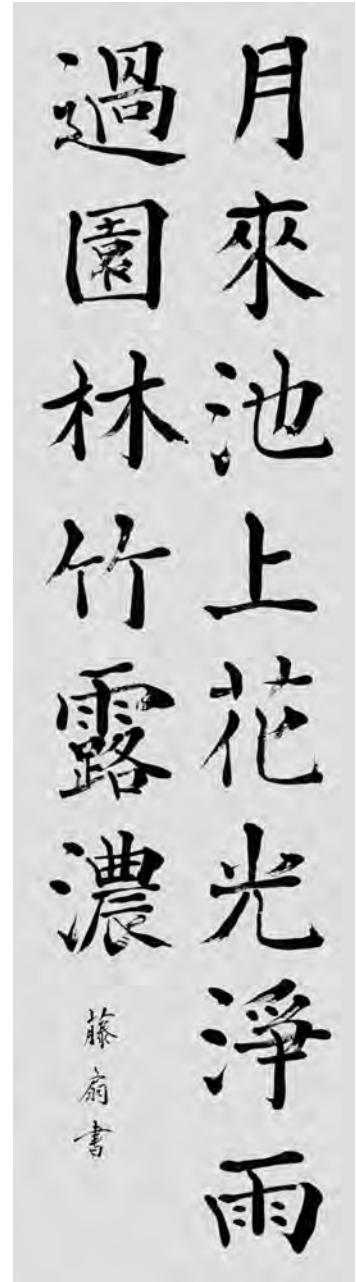


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

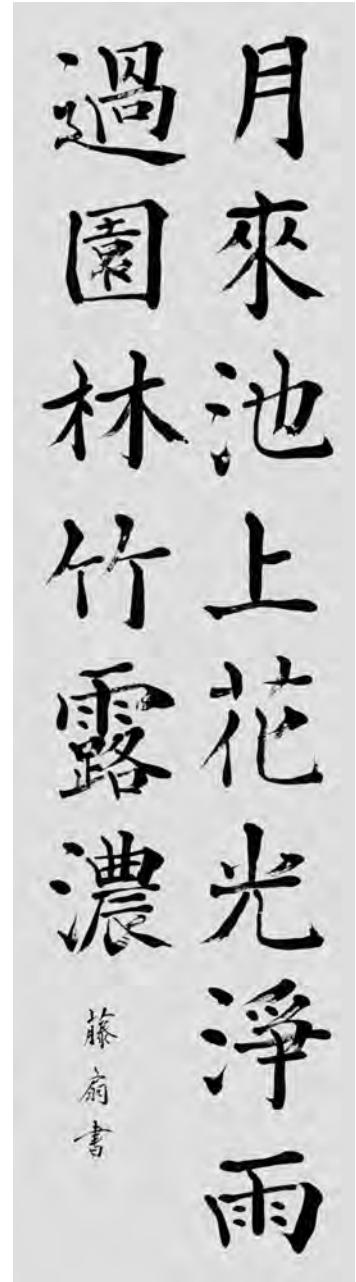


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

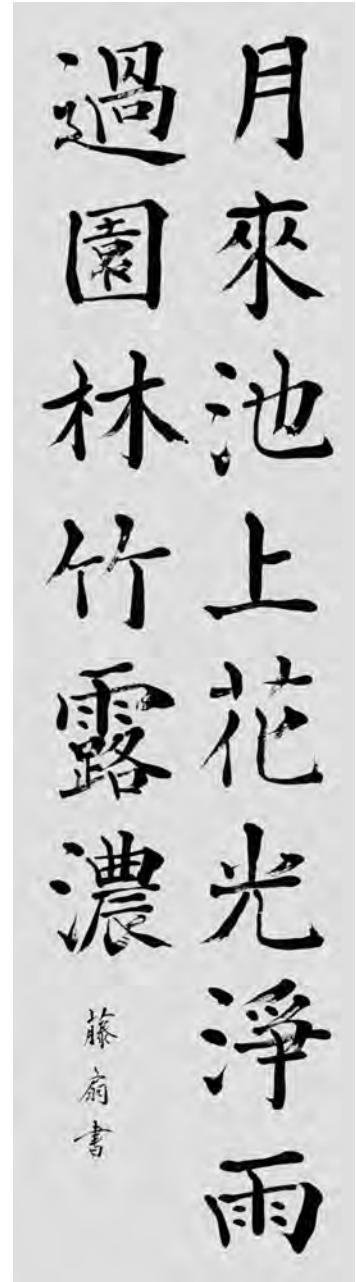


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

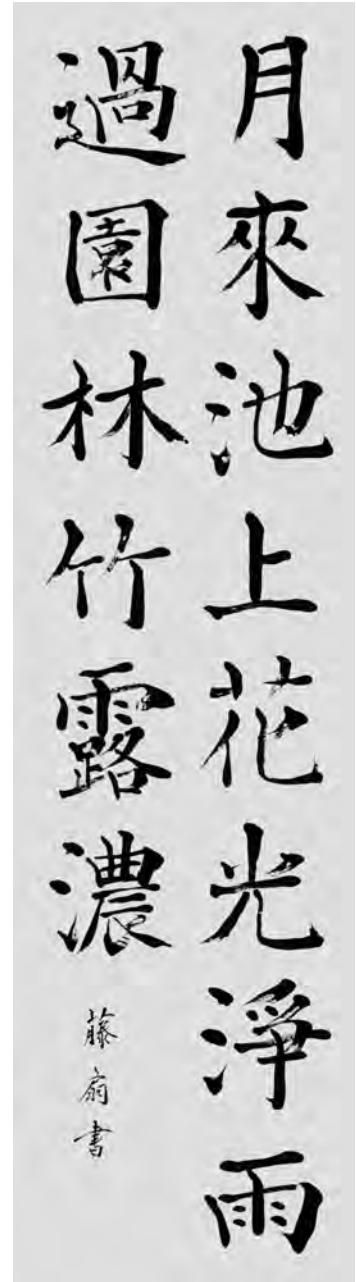


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

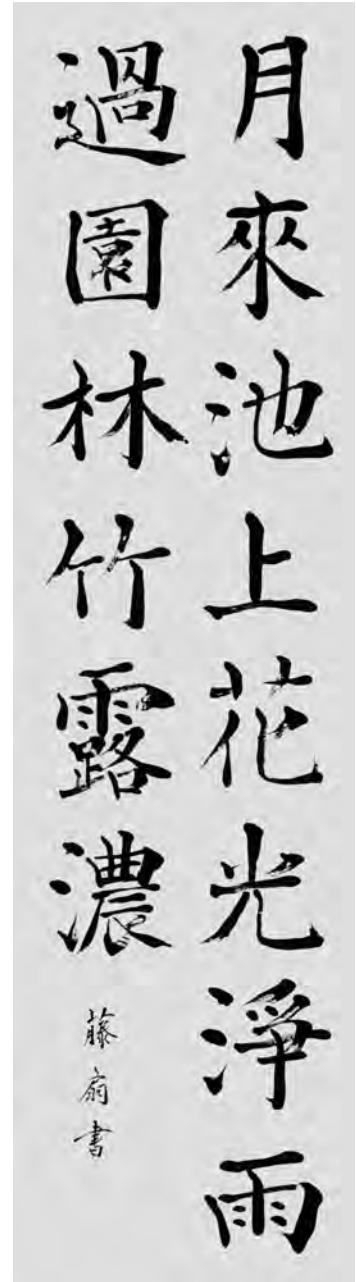


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

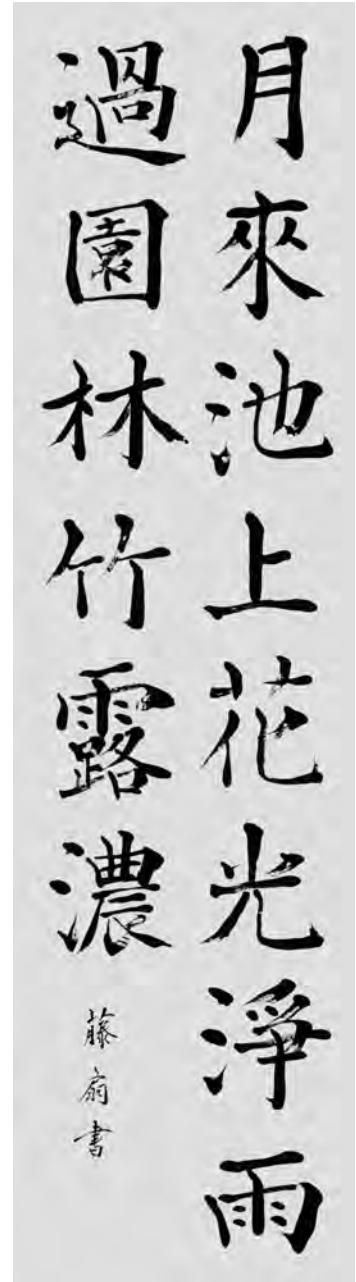


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

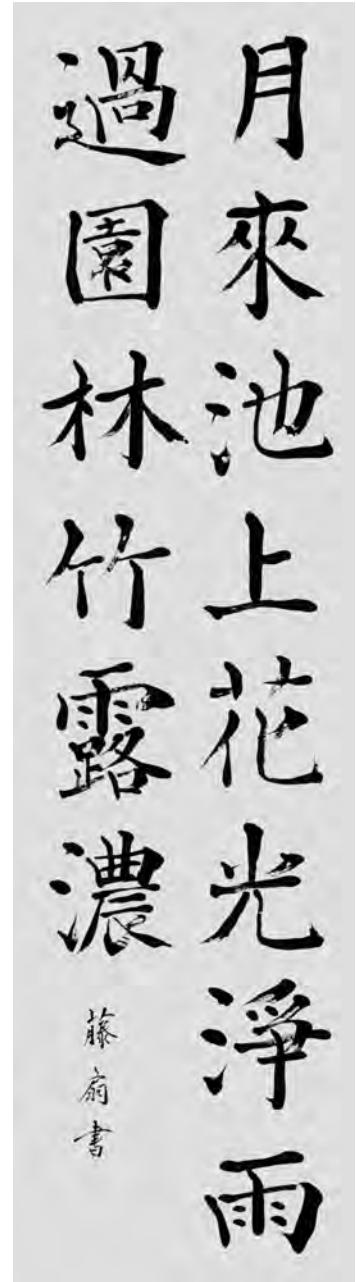


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

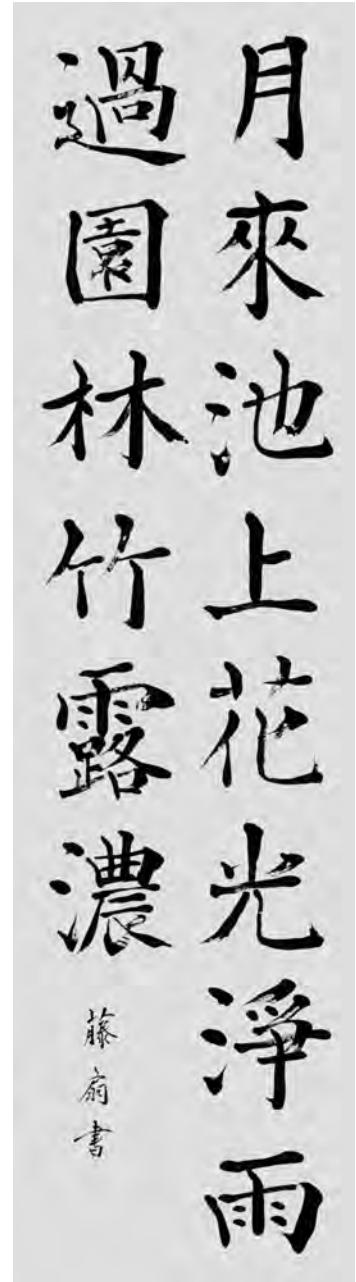


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

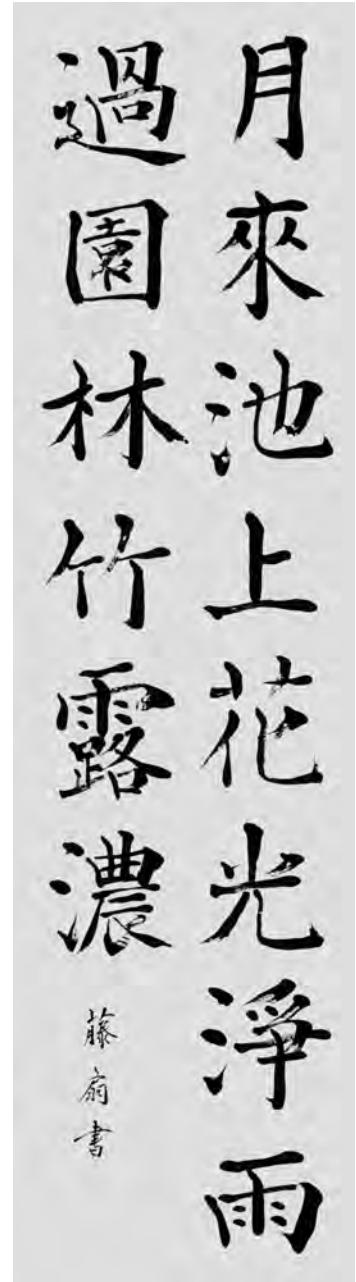


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

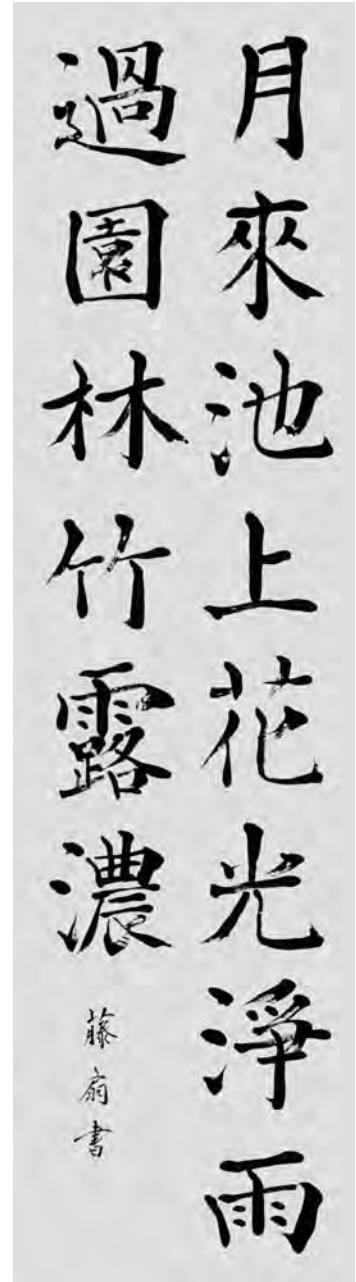


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

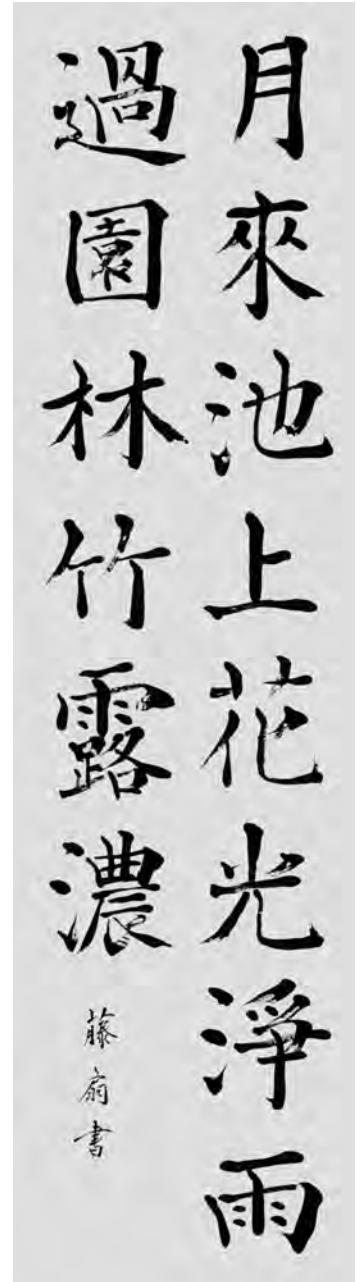


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

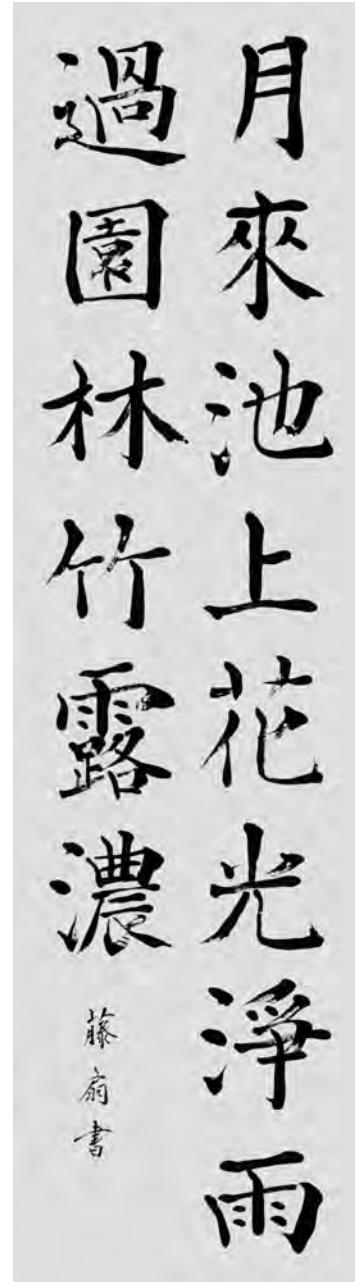


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

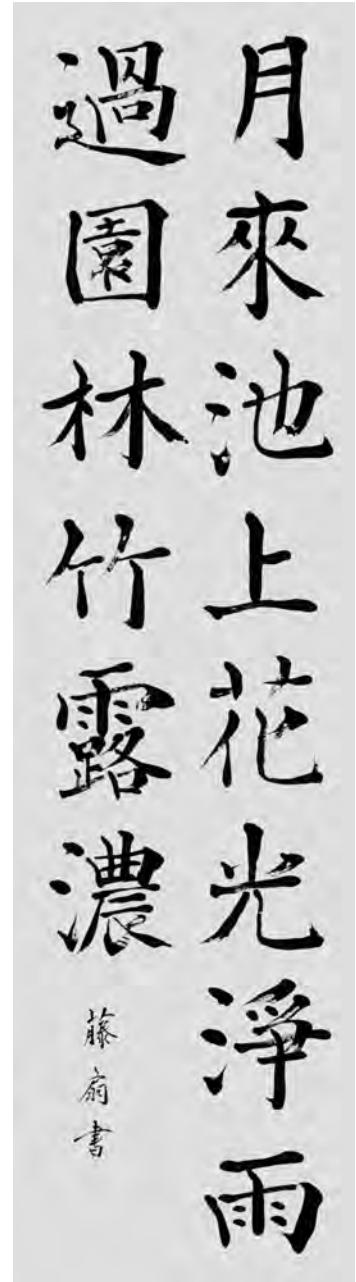


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

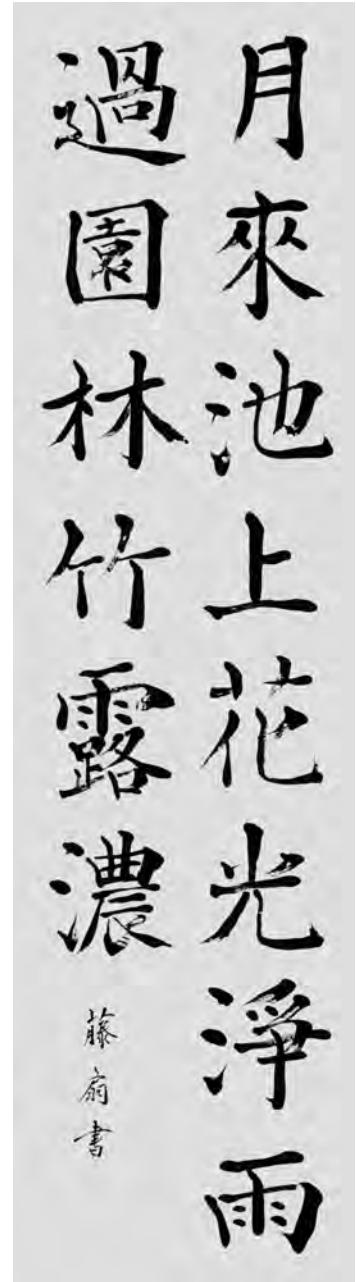


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

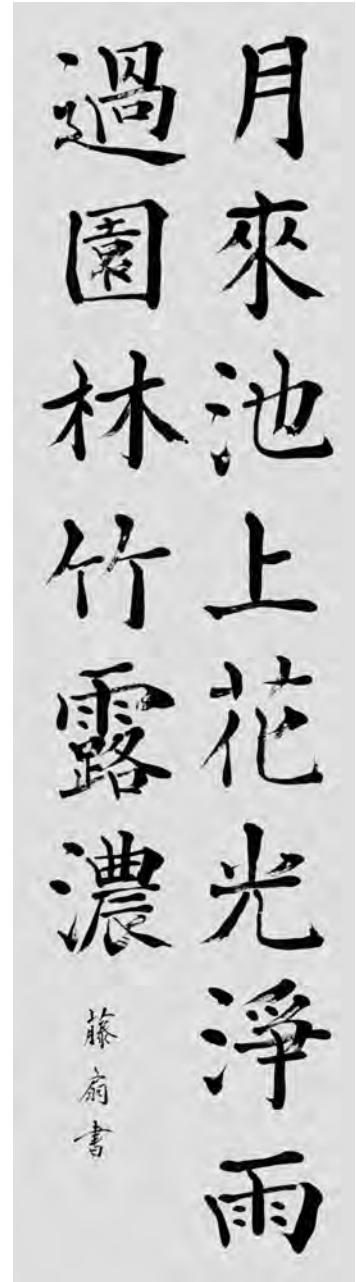


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

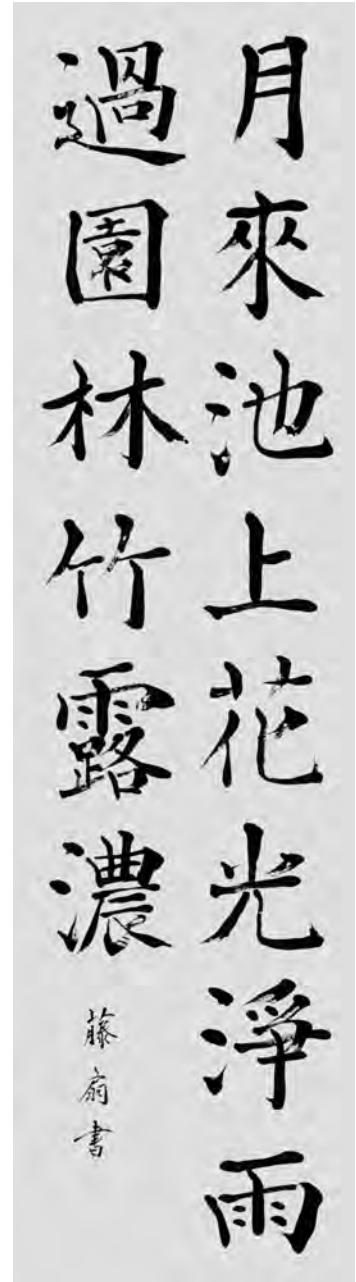


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

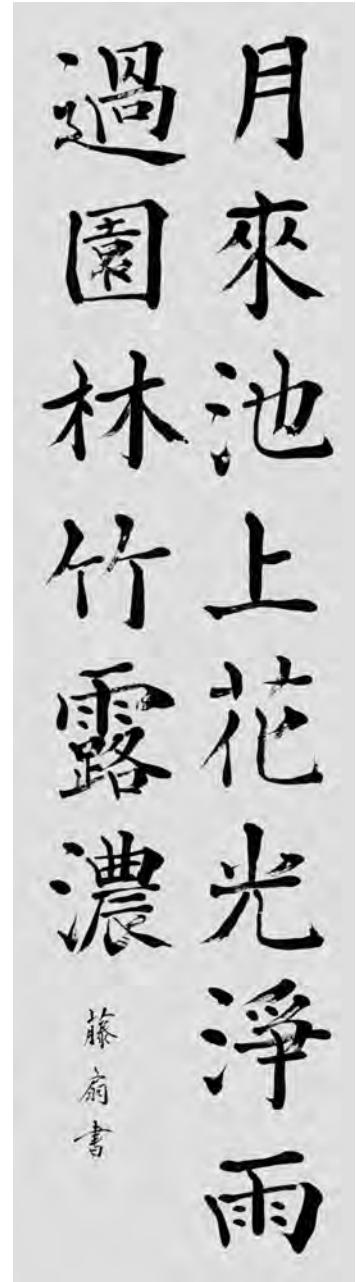


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

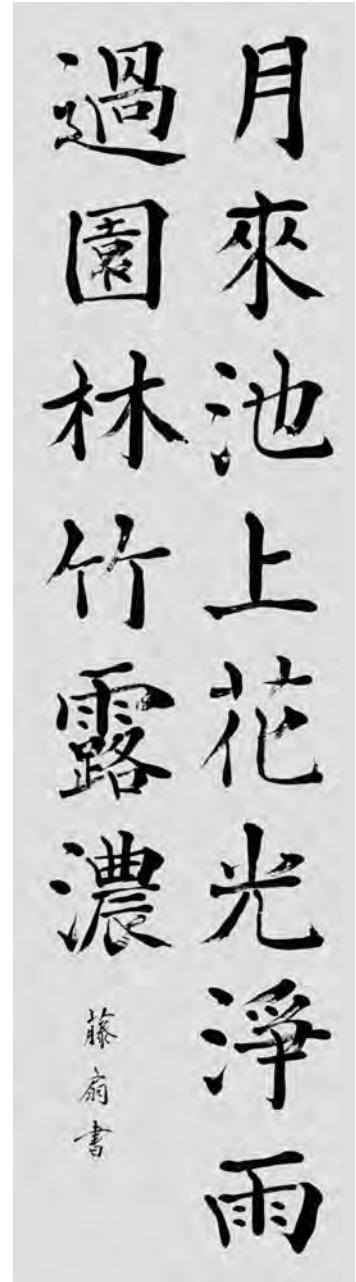


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

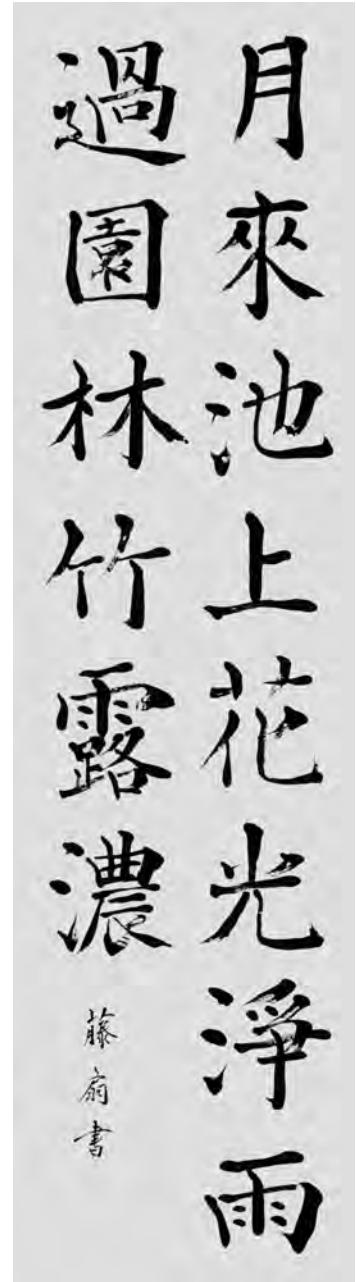


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

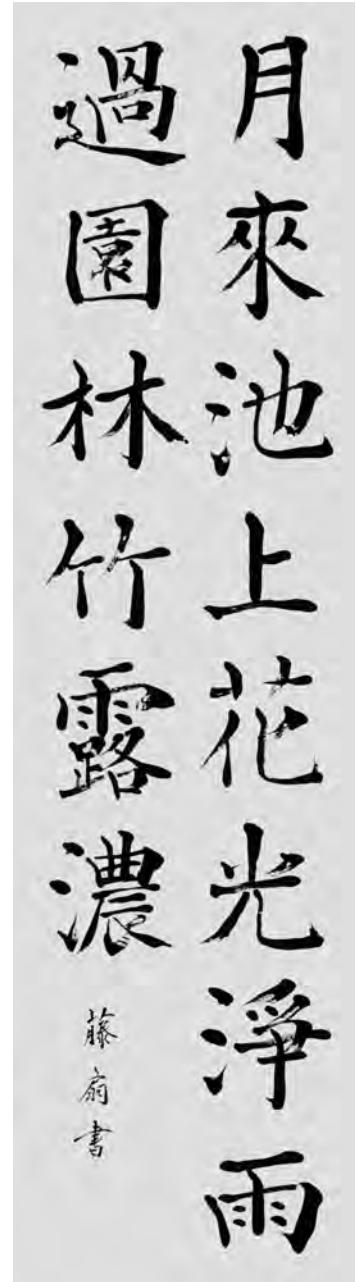


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

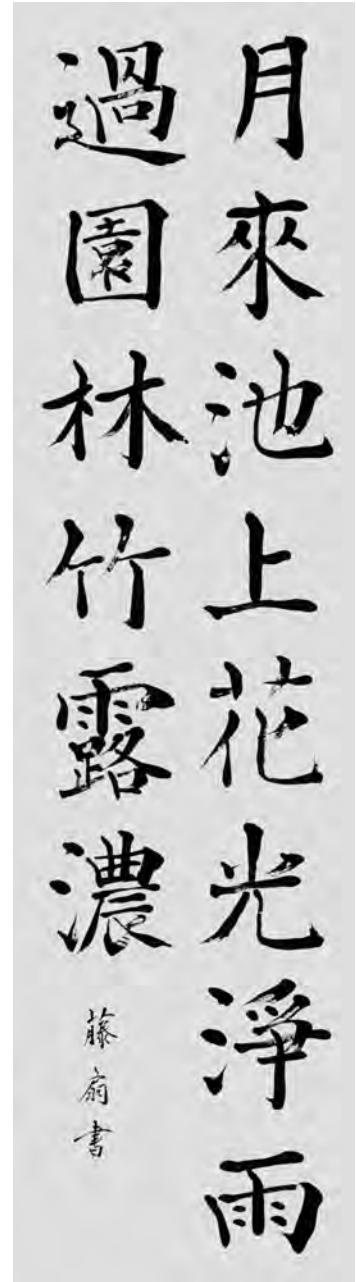


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

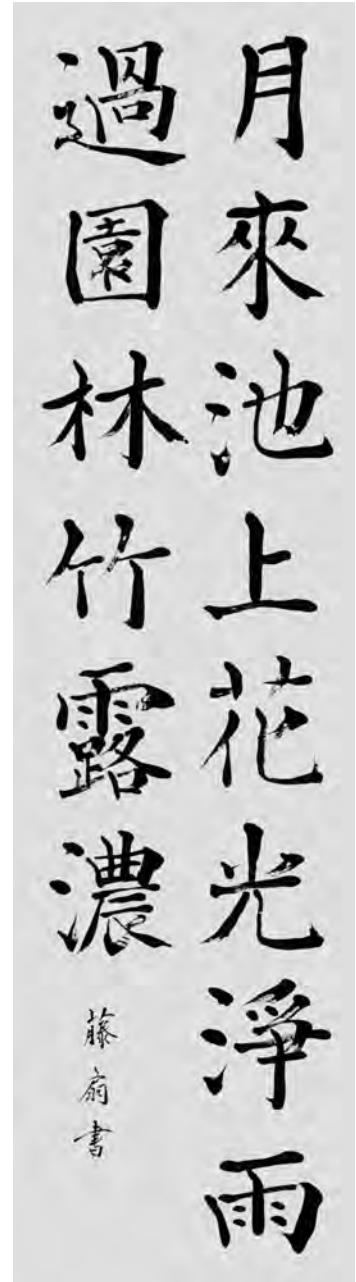


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

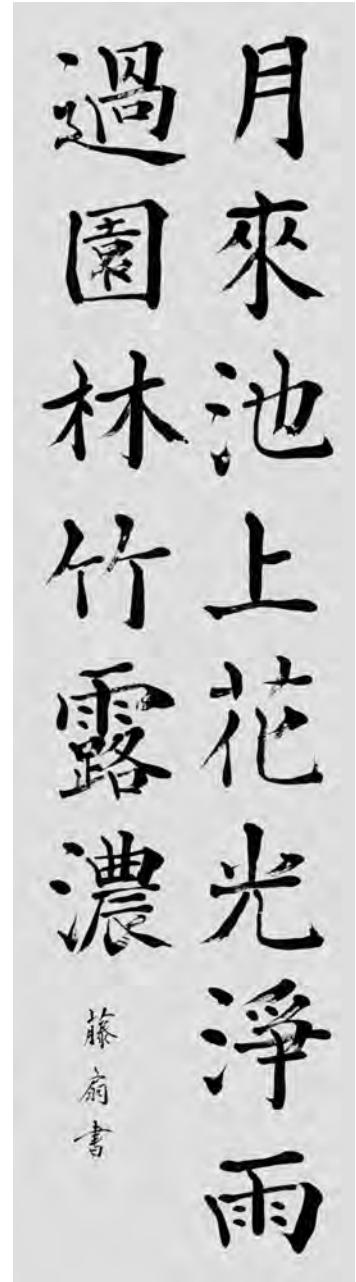


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

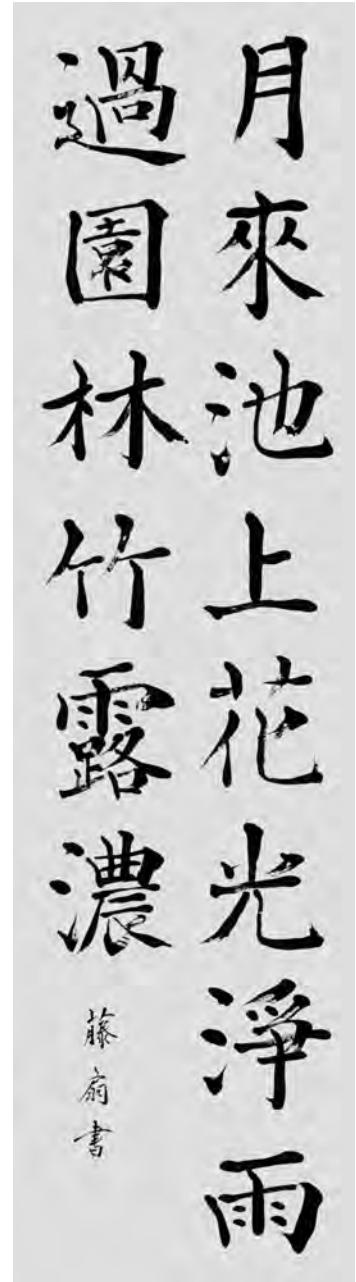


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

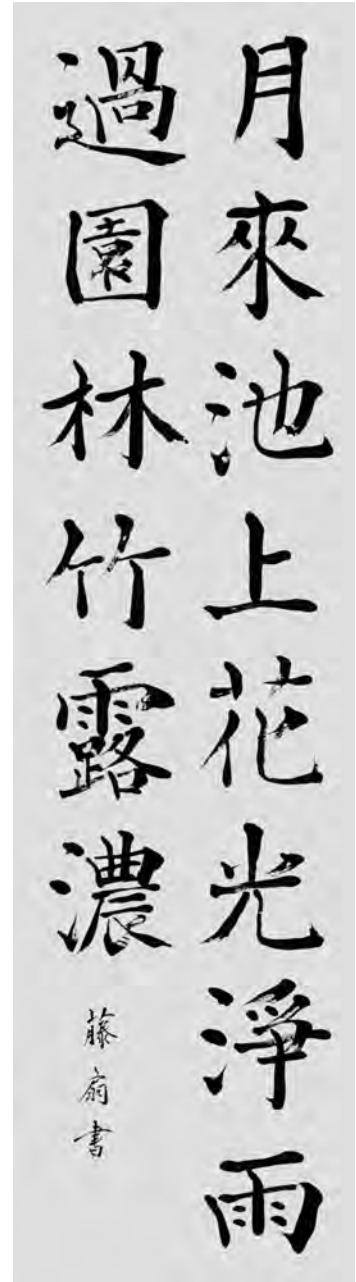


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

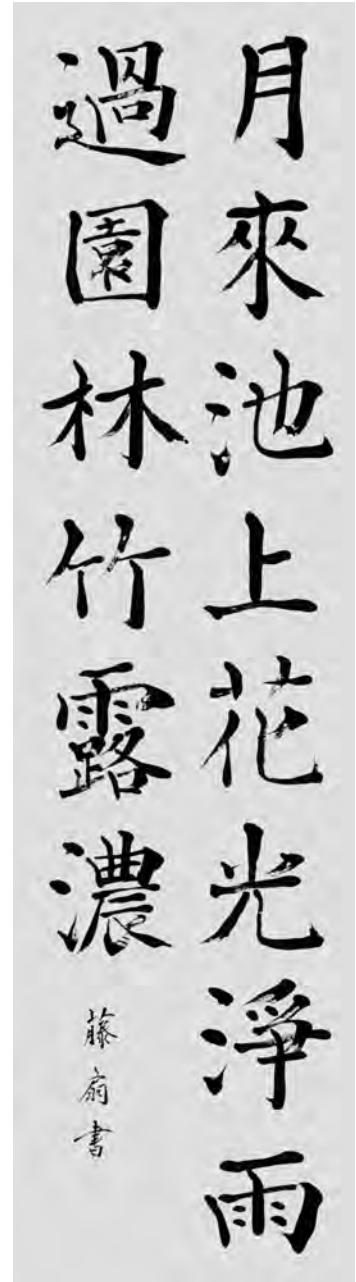


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

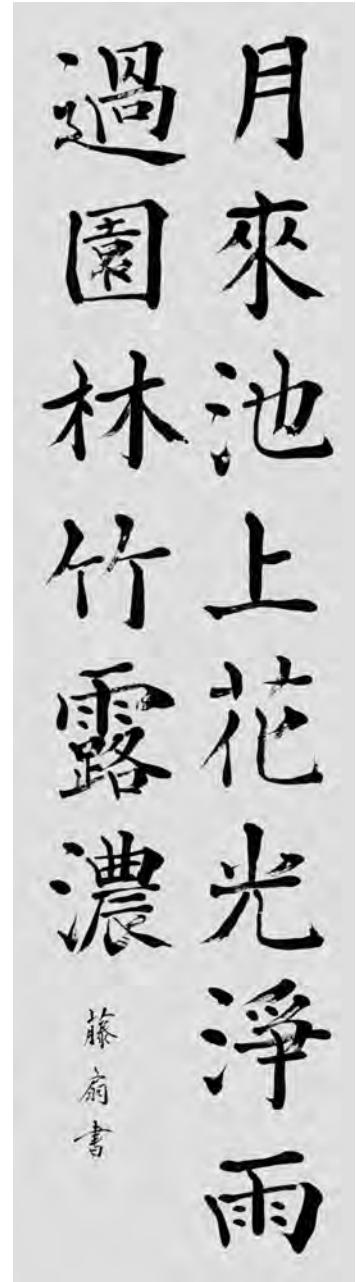


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

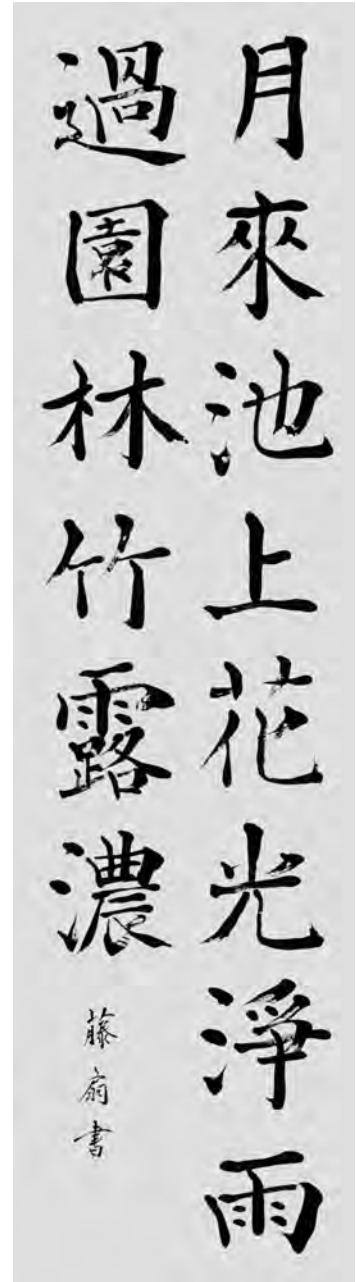


漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇



漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 四

半 田 藤 扇

川村美泉

あた浜辺をさむとくび  
昔の一ひとびーのばー、  
風の音と雲のそよよ  
寄すゝ波も貝の色も  
唱歌、浜辺の歌、美泉書

今月でペン字も4回目となりました。①漢字とひらがなの調和②運筆のリズム・緩急③文字の連綿等勉強してきましたが、自在にペンを扱うのは本当に難しいですね。ペン先の太さで、書き上げた時の印象も変わりますので、ご自分の好きなペンを探し、その違いを楽しもあるのも良いと思います。

ゆったりとしたメロディの「浜辺の歌」。口ずさむと、過ぎ去った日々がなつかしく心に湧き上がってきます。無邪気だった子どもたちや青春時代のひたむきな自分、そして、乗り越えて来たいくつかの試練…。心の中にそれぞれの思いを抱いて、書いてみましょう。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

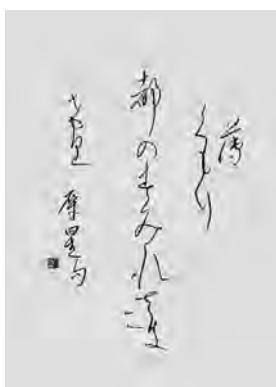
書体=自由

今月の

# ホープ作品 各部総評 No.697

かな部 師範 赤穂 浩子  
手本の研究が良く、自由に表現する世界に遊び、似て非なる作品を生み出した力量と個性は見事。

◎かな部総評 誤字もなく全般によく理解されていた。字粒への迷いは多く見られ残念。下手でも堂々と書く精神を望む。 (明子評)



かな条幅部 五段 梅津佳代子  
横形式のバランスをよくつかみ、個々の字形の確かさに滑らかにズムが見事。一層の実力を期待! ◎かな条幅部総評 行間の取り方に苦慮が伺えた。左右の空間も含めて手本をよく理解してほしい。超濃墨や滲む紙は不可。(洋子評)



漢字条幅部 師範 島 寒風  
濃墨、羊毫筆による強い線の單体作品。光明皇后の樂毅論を思われる。「為」の斜画は走り過ぎ。 (翠風評)



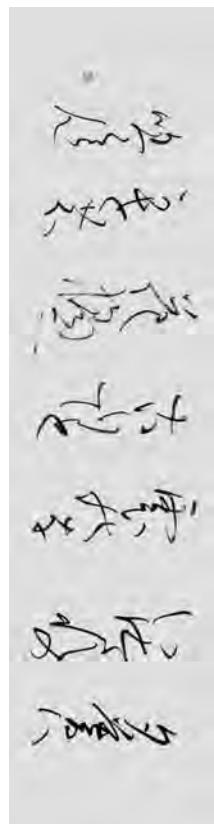
◎漢字条幅部総評 秀級以下の作品について——生彩のある線で書きたい。筆の弾力を生かして人間の書を。 (翠風評)



現代詩文書部 特選 平塚 汀泉  
作品制作の意欲が感じられる。

詩情を巧みな構成で表現し、動きのある世界感が余白を美しくした。

◎現代詩文書部総評 現詩はかな用半紙より漢字用で書こう。造形ばかりでなく線質も重要(梓江評)



前衛書部 特選 中村 一琴  
一見、縦横無尽に走る線のようだが、よく計算し尽くされた造形が浮かびあがる豪快な作。

◎前衛書部総評 発想力と表現力の相違を感じる。感動を素直に表現できる技法力を。(蓮紅評)

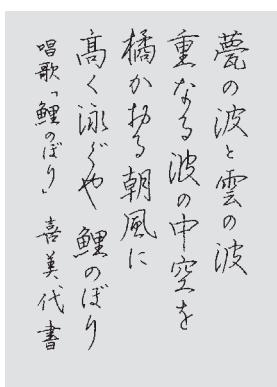
漢字部 師範 井ノ口春峰  
切れ味よい筆致が爽快なりズムを生み、明るくバランスよくまとまった作。落款もよく調和して妙。 (大雲評)

◎漢字部総評 上級5字句なれど踊り字表現(くり返し)の工夫が試される。位置 大きさなどバランスを考えたい。



ペン字部 師範 石毛喜美代  
凛とした線條に加え、字間をスッキリ纏め清涼感漂う。漢字とかなのバランス、太細も実に自然体。

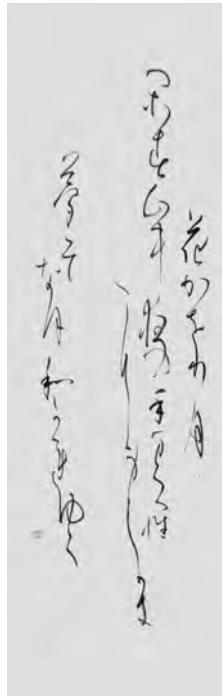
◎ペン字部総評 表現豊かに均整のとれた作多く、口ずさみながら楽しく書作されたのはと感じました。更なる研鑽を。(雪枝評)



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

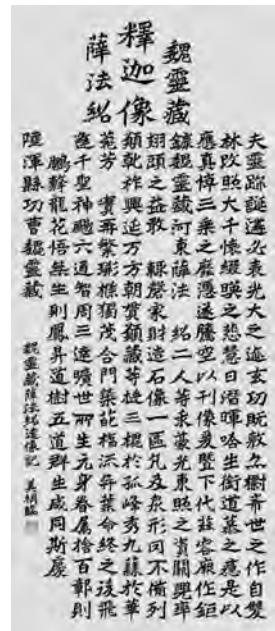
選評 辻元大雲 白石和楓 木村東舟 倉林紅瑠



神谷雲卿書

180×60cm

かな (大雲) 神谷雲卿 「冷泉為相の歌」



106.5×45.5cm

臨書 (大雲) 鷺山美梢 「魏靈藏造像記」

◆ 淡い青灰色の料紙と墨色がよくマッチして、穏やかな中に程良い渴筆が流れを生み、立てても美しい。

(和楓評)

◆ 引きしまった伸びやかな線が紙面をすっきりと明るく見せている。料紙の美しさと相俟つ構成も自然で爽やかな作。

(紅瑠評)

◆ 伸びくとした構成で、大らかさ溢れる作。作品の伸びの部分に対し詰める部分もあれば更に良い。

(東舟評)

◆ 細線をベースに、独特の青淡墨の潤滑が紙面に動きを与えている。構成の工夫も自然で魅力ある作。

◆ 細線をベースに、独特の青淡墨の潤滑が紙面に動きを与えている。構成の工夫も自然で魅力ある作。

(大雲評)

◆ ほぼ原寸大での全臨は細部までよく観察し、精妙さを感じさせる。全体のバランスも申し分ない。

(紅瑠評)

◆ ほんの原寸大での全臨は細部までよく観察し、精妙さを感じさせる。全体のバランスも申し分ない。

(大雲評)

◆ 右上がりの字形、方筆による書法等、特徴をよく捉えた臨書作品。終始一貫整っていて素晴らしい。

(東舟評)

◆ 一点一画ゆるぎなく、原帖に対する鋭い観察力と豊かな表現力は抜群。日頃の鍛錬の賜。

(和楓評)

◆ 原碑の形態を忠実に捉え、着実的確な臨書態度に敬服。見事な形臨作品で、安定した技術の高さを感じる。

◆ 右上がりの字形、方筆による書法等、特徴をよく捉えた臨書作品。終始一貫整っていて素晴らしい。

◆ 伸びくとした構成で、大らかさ溢れる作。作品の伸びの部分に対し詰める部分もあれば更に良い。

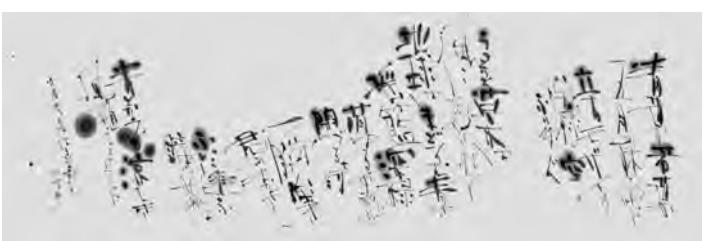
◆ 左上部に大きく間<sup>ま</sup>をとり、淡墨で軽快なリズムを表現。滲みと細線の取り合せが魅力的。

(東舟評)

◆ のびやかな筆致で流れ良く表現し、広がりを感じさせる作。もう少し厳しい線質がほしい。

(大雲評)

現代詩文書 (玄穹) 千葉紅雪 「文屋亮の歌」



千葉紅雪書

60×180cm

◆ 繊細な細線に氣字の大きさがあり墨色も美しく、墨だまりが効果的に表現された。構成も見事な作品。

(和楓評)

◆ 構成や墨の濃淡などの変化を巧妙に盛り込み、紙面全体を表情豊かにまとめあげた。

(紅瑠評)

◆ 左上部に大きく間<sup>ま</sup>をとり、淡墨で軽快なリズムを表現。滲みと細線の取り合せが魅力的。

(東舟評)

◆ のびやかな筆致で流れ良く表現し、広がりを感じさせる作。もう少し厳しい線質がほしい。

(大雲評)

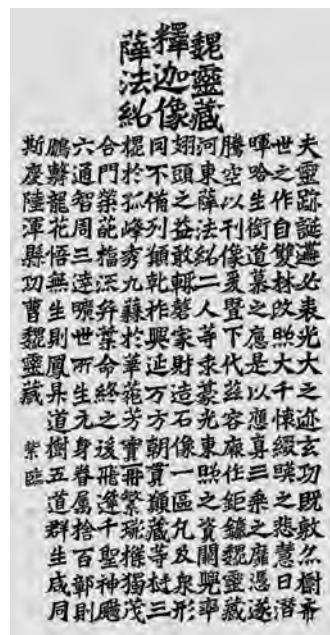
(紅瑠評)

◆ 引きしまった伸びやかな線が紙面をすっきりと明るく見せている。料紙の美しさと相俟つ構成も自然で爽やかな作。

(和楓評)

◆ 細線をベースに、独特の青淡墨の潤滑が紙面に動きを与えている。構成の工夫も自然で魅力ある作。

(大雲評)



135×70cm

廣田 紫臨

◆原碑の力強さと充実感をよく捉えている。やや拡大した表現が瑣さを感じる。落款はもう一考を。

◆力強く意迫ある意欲的な臨書。一字一丁寧で、切れ味の鋭い筆使い見事。努力に感動!

(東舟評)

◆造像記の特徴をよく捉えている。真面目に力強く意迫張ぎる素晴らしい臨書で、暢やかさもある力作。

◆細部まで観察力が發揮されている。龍門様式の特徴をよく理解している。原碑を忠実に丁寧に臨書した努力作。

(紅瑠評)



180×60cm

三浦朱鳳書

前衛書

(篤信)

## 三浦朱鳳「夕立」

◆エネルギー感満ちた筆致が大きく躍動し、紙面に豪快さが漲っている。スケールの大きな作となつた。

(紅瑠評)

◆最初の一気に入り、中央の渴筆の広がりに転開。最後のまとめバランスが絶妙で、大胆な構成に魅力あり。

(和楓評)

## 現代詩文書 (八戸) 市川紫泉

「過ぎ去りし想い出」より



60×180cm

市川紫泉書

◆濃墨渴筆の中に墨量の多い文字が豊かさを醸し出している。余白が非常に美しく、構成も落款まで見事で爽やかな作。

(和楓評)

◆余白が鮮烈に観者に迫つてくる作。渴筆の変化が微妙なりズムを醸し出し詩情溢れる作。

(大雲評)

創作の部 (39点)  
漢字 - 5点  
かな - 3点  
現代 - 16点  
篆刻 - 0点  
漢字 - 26点  
かな - 1点  
現代 - 16点  
篆刻 - 15点  
漢字 - 1点  
かな - 1点

総出品点数 65点

〈特選候補者〉  
(創作の部)

「漢字」

秀恵阿部 雅悠

千葉竹浪 叙舟

「かな」  
水野伊澤 香雨

若葉工藤 奎媛

蓮紅大友 紅蓉

「前衛」  
角田坂田 翠江

大拙畠中 成山

上杉菊地 京香

大雲佐藤 希雲

英峰佐藤 麗華

「かな」  
千葉猪又 理扇

◆大きく軽快に動く墨に対し、余白が美しい。大胆な筆捌きでタイトルのイメージをよく表現している。

(東舟評)

◆ダイナミックな筆致が紙面に大きな迫力ある動きを与え、気迫氣力の作。下部少し物足りない。

(大雲評)

◆大きく軽快に動く墨に対し、余白が美しい。大胆な筆捌きでタイトルのイメージをよく表現している。

(東舟評)

前衛書  
〔篤信〕  
三浦朱鳳「夕立」

〔篤信〕  
市川紫泉「過ぎ去りし想い出」

〔篤信〕  
英峰佐藤「かな」

〔篤信〕  
千葉猪又「理扇」

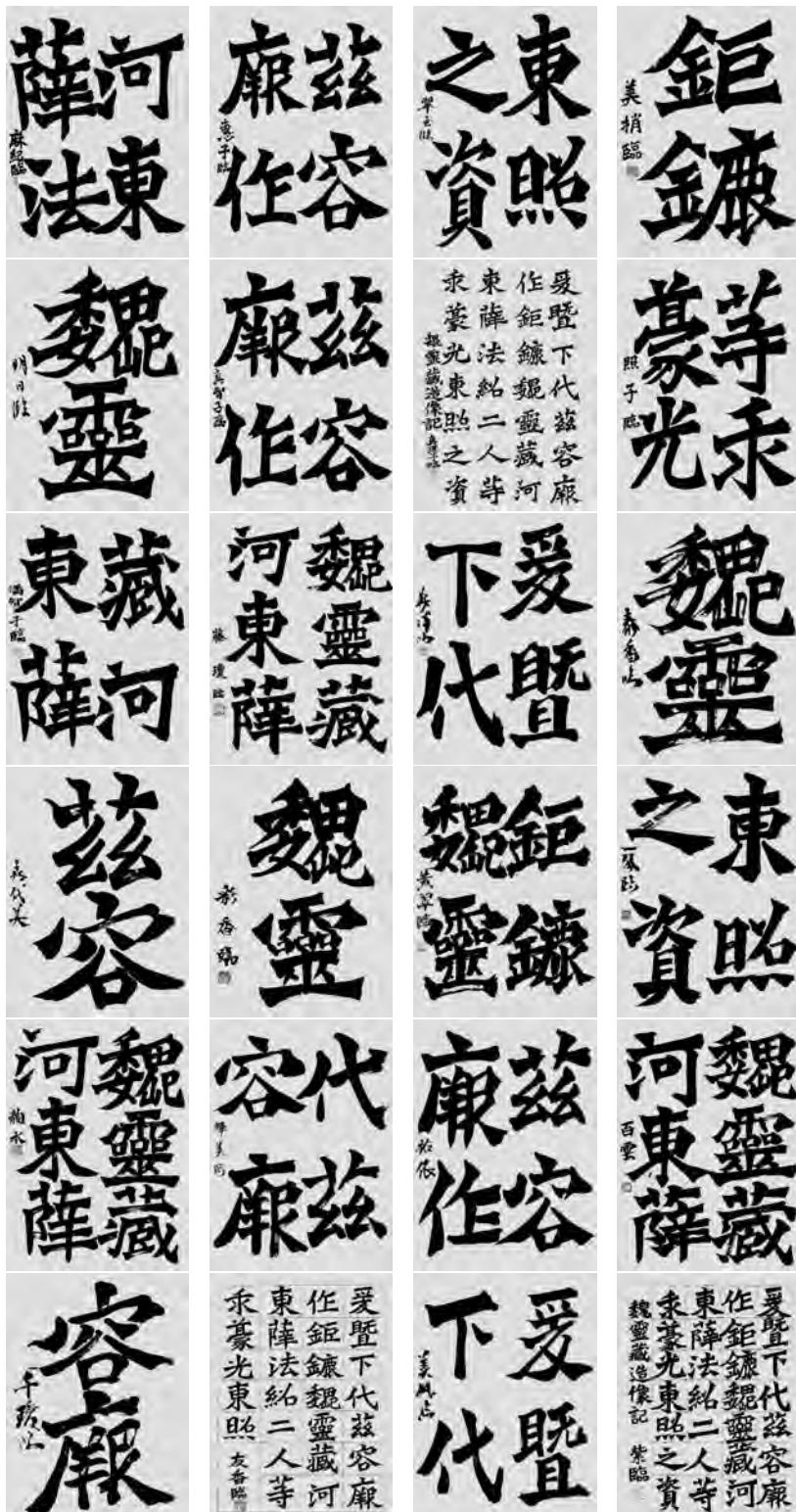
漢字研究部  
(魏靈藏造像記)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



阿 部 雅 悠



千絢喜 明 ま  
代 まち子 夏 き  
爰水美子

友輝 彩 藤 真 惠  
香 智 子 子  
里美香瓊子

美祐 黄 華 真 翠  
理 帆 依 翠 洋 子 玉

百一泰 照 美  
紫 雲 琴 香 子 梢

漢字研究部 特選 阿 部 雅 悠

○沢山書けているか

○実物と拓本の差を感じながら臨書しているか

○表現することに慣れているか

など、漠然と自分自身に問い合わせていること

をお話しました。

◎漢字研究部総評  
先日、上手になるにはどうすればいいですか?と質問された時

○感性を研ぎ澄ませて毎日を過ごせているか

力強さと結構の鋭さを、力むことなく豊かな線質で表現。整齊の中にも躍动感のある書風で生命力あふれる作品に仕上げました。

○実物と拓本の差を感じながら臨書しているか?

○表現することに慣れているか

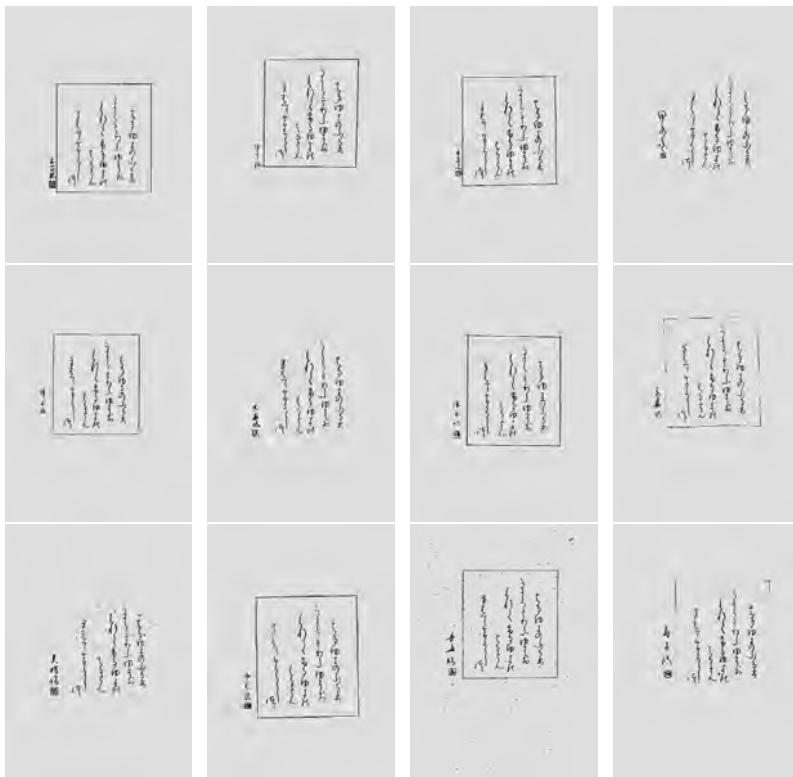
○お話ししました。

切れ味鋭い筆使い、起筆、転折の打ち込みの角度をとらえるところから始めましょう。

## か な 研 究 部 (升色紙)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



美洋和  
梢子子

耶真佑  
衣華子

香淳良  
舟子泉

壽春絢  
子華水

澄	八蘭千椿紅高 春街鼎葉翠瑣陵	大蘭若麗正 秀	誠椿う紅正石大正清玉大京紅渡壠 和翠の風華習雲華月松雲橋瑣辺葵！春苑草 雲鼎葉澤華	A 遼宗樸
特選				
植	井市飯安藍會 田上川田藤澤木	作	堀森工須石鈴石安飯田岡松驚柴壇田草吉須大 切 藤藤川木崎嶠高畑田丸山田野中刈田田沢藤藤田木代 サ 美 (50音)	後伊宇茂苗 川 真寿
紅	芝光代白勇 雨芝子彩子跳介		幸直山秋津陸甘砂美愛美麻洋和耶真佑香淳良壽春絢佳 雲子房雨子心雨子生子美石梢子衣華子舟子泉子華水蕙	
玉	松佳	秀己や高華玉白春華椿紅上了玉高千春秀高旭澄春明硯澄潮や高立 韻未ま真仙川鶯汀仙翠瑣泉か松陵葉汀韻真老春汀漢水春音ま稽精	// 大た誠 阪か和	
青	木作 (50音)	吉山山柳谷森 川根口岸瀬知野川山島部野本羽村子内井橋 二 真裕 美 美 加外木 美 琴 律奈奈美友連瑛瑛つ春 永紅惠博紀智一真幸代美雅翠杏つ加白俊萩代琴 美子香子香子香子香子香子香子香子香子香亮子舟子	小菊鍛小梅鶴 藤峰地治野津澤 か美	
葵	郷			

明昌幕幸黎桜祥華高あ八菊大春生蓮上A前祥光澄大長前長正樹初東は高水青小水春洞桂上一大玄 天大秀高一泉秀や  
選漢苑張扇明草紫仙崎か街月雲汀大紅泉 I 橋紫昭春阪月繡月華原香向せ崎海蓮中堅汀書泉京草雲象 燭阪水真宮会歎  
156 吉吉山山山山矢本村宮三増牧本本堀別藤福深廣平春原林早畠畠長根根沼長永中中中中中中中富富鶴鶴筑田  
名田川本中田田口吉上崎浦野田多江府田井堀地山山澤 坂山山谷本岸田妻井山村村村林島里里田澤淵田 井玉  
氏名略 紗久 さき 喜のと とシ 理

かな研究部成績表

**かな研究部 特選 苗代佳恵**

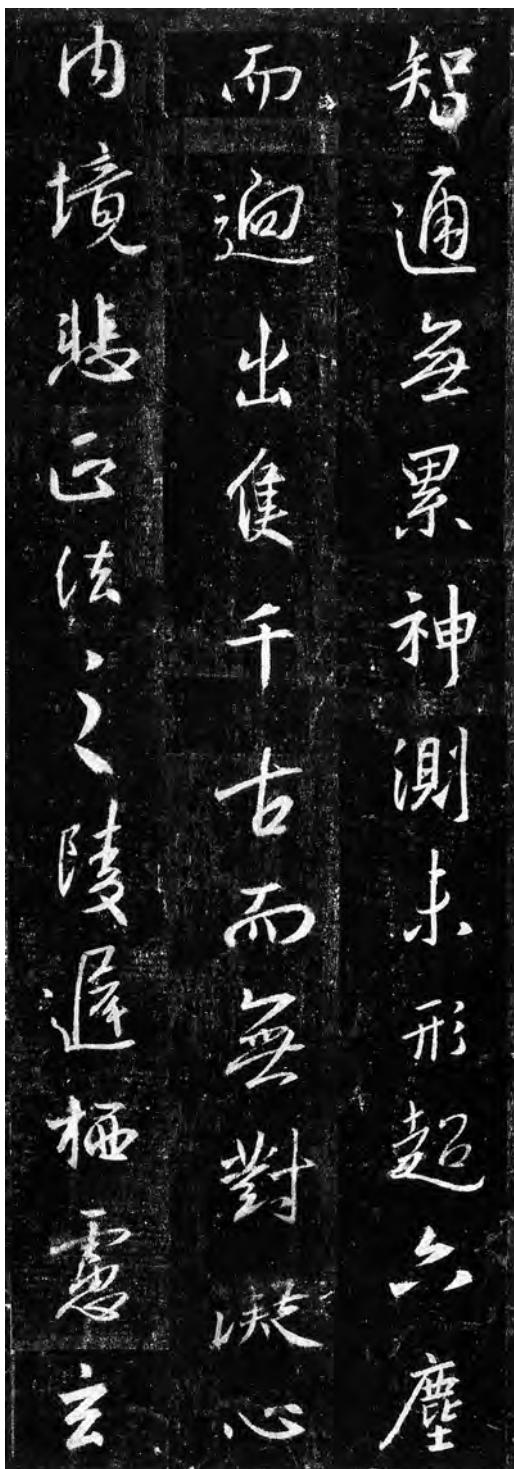
筆先に神経を集中させ、筆の力の美しさを遺憾なく発揮した作品です。墨量の変化の妙も心地よく、流麗さと古筆の魅力を醸し出しています。

◎かな研究部総評

升色紙の臨書に重要な部分に筆の選択の是非があるでしょう。穂先に鋭さのある筆を選んで欲しい。作品の雰囲気が損なわれる筆には気をつけて下さい。

## [特別昇段級試験臨書課題]

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。



集字聖教序（行書）

漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書



智通無累。神測未形。超六塵而迥出。隻千古而無對。凝心內境。悲正法之陵遲。栖慮玄

運百福而長今妙道  
宗玄遵之莫知其際  
法流湛寂挹之莫測其源  
其涼故知春蟲凡愚

運百福而長今。妙道／凝玄。遵之莫知其際。／法流湛寂。挹之莫測其源。故知蠹凡愚。

眞卿。聿修是忝。嬰孩集蓼。不及過庭之訓。晚暮



顏勤礼碑（楷書）

## 漢字条幅部

## 第一種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書

十七日先書。都司馬未去。卽日得足下書爲慰。先書以具示。復數字。



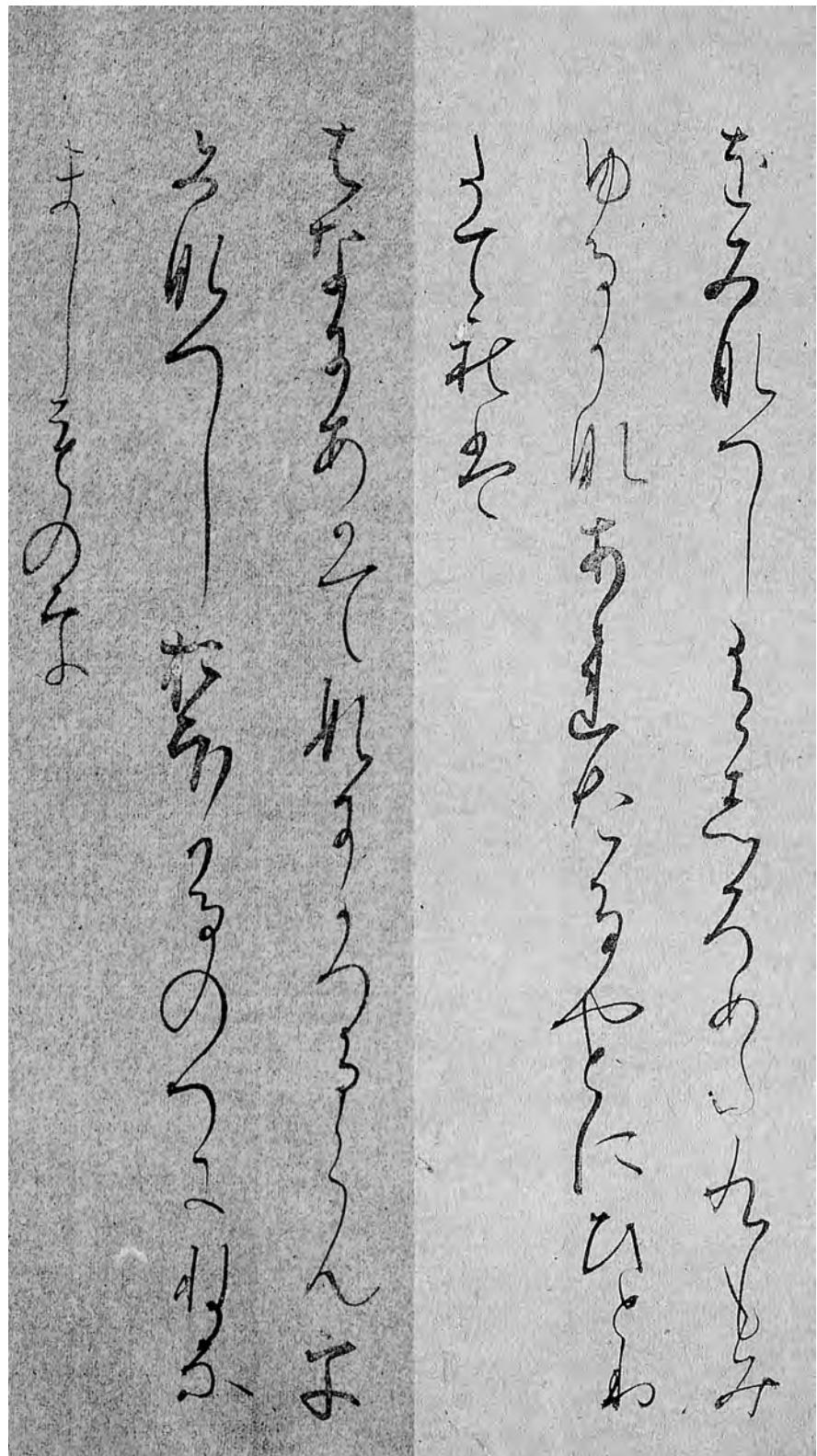
珠の下アシを下アシまちへとよざわ  
 ありてむれのムレに下アシよな  
 よのやまれうりたよタヨいそ、  
 さきとすのサキれよせも

よのなかコをいとふやマヂのくさきクサキとやアなうのはナのいろにいアでにけケ  
 みよしのムやマのかなたカナタにいヘもがなガよノのうきウキときトキのかくカクれレがにせセむ

※図版は原寸

をみなへしうしろめたくもみゆるかなあれたらやどにひとりたてれば  
はなにあかでなにかへるらんをみなへしおほかるのべにねなましものを

※図版は原寸  
※図版は詞書と作者（読み人）を省略しました。



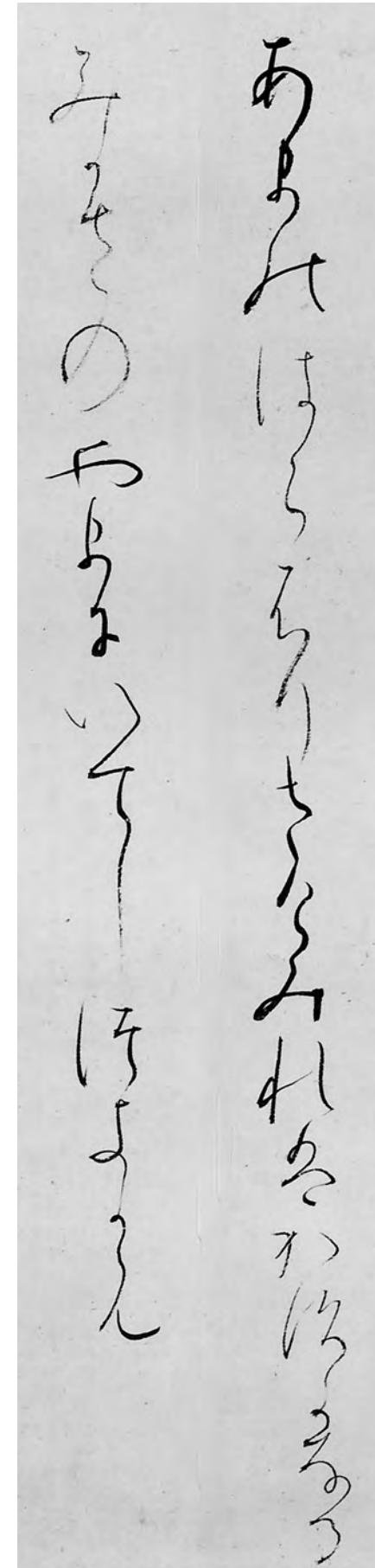
高野切第一種

かな条幅部

第三種

半切に写真掲載の和歌を書く（料紙可）

あまのはらふりさけみればかすがなる／みかさのやまにいでの  
能 不 介 繫 須 可 奈 美 可 示 徒 支 可 无  
つきかも



※図版は原寸

名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書（かな部・かな条幅部は印のみ可）と書く。
- ・臨書は○○臨と書く。

ご注意!!

